週刊 YEARBOOK

1969 昭和44年 日録20世紀

6|24
平成9年6月24日発行
(毎週1回発行)第1巻第18号
¥560
講談社

人類、月面に立つ!

国民的アイドル「寅さん」シリーズ第1作
50兆円突破! 日本、GNP世界第2位に躍進
東大・安田講堂"落城"までの35時間

再現ドキュメント

「アポロ11号」宇宙への旅195時間 ついに人類が月の表面に立った！

7月20日午後10時56分（米東部夏時間）、アメリカの宇宙船「アポロ11号」の月着陸船「イーグル」から、船長のニール・アームストロングが月面におり立ち、月への第一歩を踏み出した。人類が初めて地球以外の天体に足跡を印した、まさに決定的瞬間だった。

▼8月13日、ブロードウェイで盛大な歓迎を受ける、左からコリンズ、オルドリン、アームストロングの3飛行士。 WWP

二度の危機を乗り越え「イーグル」は着陸した

七月一六日午前九時三二分、「アポロ11号」が、フロリダ州のケネディ宇宙センターから打ち上げられた。先端のアポロ宇宙船には、船長のニール・アームストロング（三八）、月着陸船「イーグル」の乗員エドウィン・オルドリン（三九）、司令船「コロンビア」に乗って月軌道上で待機するマイケル・コリンズ（三九）の三人が乗りこんでいた。

抜けるような青空の中に、アポロ宇宙船を乗せた全長一一〇㍍のサターン5型ロケットが、オレンジ色の炎を吐きながら吸いこまれていく。全米から集まった一〇〇万人の群衆が、この旅立ちを見送った。そして四日後の七月二〇日、「アポロ11号」は月をまわる軌道に入った。

月着陸船「イーグル」が下降のためにエンジンを噴射したのは七月二〇日午後四時五分、月面からの高度が一四㌔ほどのところであった。降下速度を徐々に緩めていく。そして「イーグル」は、午後四時一七分四二秒、「静かの海」の西端に着陸した。

それから六時間余り後、「イーグル」

▲月面活動を終えて上昇、ドッキングのため司令船「コロンビア」に接近する月着陸船「イーグル」。地平線に半分欠けた地球が見える。 NASA SCIENCE PHOTO LIBRARY PPS(表紙も)

◎表紙　月面を歩くオルドリン飛行士。撮影者のアームストロング船長と月着陸船が、ヘルメットのバイザーに映っている。

再現ドキュメント

「アポロ11号」宇宙への旅195時間
ついに人類が月の表面に立った!

▲月面活動中のオルドリン飛行士。右上に月着陸船「イーグル」、中央に地震計が見える。地震計の後方にアメリカ国旗、その左に小さく見えるのが月面活動を記録したテレビカメラ。 NASA／SCIENCE PHOTO LIBRARY／PPS（左ページ下も）

のハッチがついに開けられた。計画では、アームストロングとオルドリンは月面到着後、四時間の睡眠と二回の食事をとった後に、船外活動の準備を始めることになっていた。しかし、予定は約五時間繰り上げられた。この時の模様をオルドリンは、著書で次のように述べている。

「われわれはたったいま月面に着陸したばかりで、体内にはまだたくさんのアドレナリンが流れ興奮していた。船外活動の前に睡眠をとれと言うのは、子供にクリスマスの朝に正午までベッドに入っていろと言うのに等しかった」（『地球から来た男』鈴木健次・古賀林幸訳）

それもそのはずだった。「アポロ11号」が最終降下を行っていた一二分間の間に、ヒューストンの有人宇宙飛行センター・アポロ管制室を凍りつかせるような事態が二度も起きていたのだ。

一度目は高度二〇〇〇メートル付近でのことだった。コンピュータの処理速度が、事態の進行に追いつけなくなったのだ。着陸を続行するか中止するか。二六歳と二四歳のコンピュータ技師が答えを出した。「ゴー」。

二度目は着陸二分前から着陸の瞬間まで続いた。月面の地形が予想外に複雑で、安全な着陸地点がなかなか見つからない。「イーグル」は、燃料切れの六〇秒前になっても、まだ高度一〇メートルほどで飛んでいた。「イーグル」が着陸した時、わずか一六秒分の燃料しか残っていなかったのである。

世界中が目撃した人類史上初の壮挙

午後一〇時五一分、アームストロングが「イーグル」の出入り口に立った。オルドリンのテレビカメラがまわり始める。アームストロングが注意深く梯子をおりる。着地も慎重だった。まず左足をおろし、もぐらないことを確認してから右足をおろし、さらに両手を梯子から離して一歩を踏み出した。「一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ」という言葉が世界中に伝えられたのはこの時である。午後一〇時五六分、日本時間では七月二一日午前一時五六分のことだった。

アームストロング、オルドリンの両宇宙飛行士は、重力が地球の六分の一という月の表面をカンガルーのように飛び跳ねながら動きまわった。活動時間は約二時間半。地震計・太陽風測定装置などを据えつけ、岩石の採集や写真撮影を行って「イーグル」に戻った。

この、「アポロ11号」の月面着陸と、それに続く二人の宇宙飛行士による月面での活動は、世界中にテレビで放映された。世界で五億人、日本では約七〇〇〇万人がこの場面に見入ったと言われている。そして、アポロ管制室とアポロ宇宙船内の宇宙飛行士たちとのやりとりが、同時通訳によって伝えられた。

この世紀の場面を同時通訳した村松増美氏（現・サイマルインターナショナル会長）は、その時のことを、「とにかく、歴史的な一瞬に立ち合ったということで、非常に高揚しましたね」と語っている。通訳に失敗はなかったが、時々通訳不能なやりとりが、ヒューストンと飛行士との間で交わされたこともあったという。「何か暗号のようなもので、通訳のしようがなく、私は沈黙するしかありませんでした」と、氏は当時を振り返る。

月着陸船「イーグル」は二一日午後一時五五分、月面を離れた。そして司令船「コロンビア」とドッキング、乗員が移乗し、二四日午後零時五〇分、中部太平洋に無事着水した。地球を飛び立ってから八日と三時間余り後の帰還だった。

▲地球への帰還後、隔離室でニクソン大統領と会見する3飛行士。

「宇宙を見た人々」のその後

▲1961年5月、「アメリカは1960年代末までに人類を月へ送る」と演説するケネディ大統領。 WWP

地球を離れ、宇宙空間での数々の体験を経た後、再び地球に帰還した宇宙飛行士たちは、その後、どのような人生を歩んだのか。多くは、この宇宙体験を転機にして、新たな人生を歩むことになった。ある人は政治やビジネスの世界をめざし、またある人は宗教の世界へと進んだ。

1962年2月、「フレンドシップ7号」で地球を周回し、実質的にアメリカ初の宇宙飛行士となったグレンは、上院議員になった。また、「マーキュリー8号」「ジェミニ6号」、そして「アポロ7号」では11日間の長期滞在を行ったシラーは、ビジネスの世界に入った。

「アポロ15号」で3日間月に滞在したアーウィンは、現在はキリスト教の伝道師である。彼は、月におり立ち、静寂で荒涼とした世界に足を踏み入れた時、そこに神がいると感じたという。

しかし、目的を達した後の虚脱感から人々との接触を絶って、自己の世界に埋没する日々を送る人もいた。宇宙飛行士にとって宇宙とは、あらためて人間を見つめなおす場であったのかもしれない。

「私、生まれも育ちも葛飾柴又です」
配給収入468億円、観客動員数7970万人
国民的アイドル「寅さん」スタート！

▲最後の作品となった「寅次郎紅の花」の奄美大島でのロケ風景。写真左から寅さん役の渥美清、マドンナ役の浅丘ルリ子、山田洋次監督。 写真はすべて松竹提供

昭和四四年八月二七日、「男はつらいよ」が封切られた。実に四八作も製作されたシリーズの第一作である。この映画は多くの日本人に愛され、全シリーズの配給収入は四六八億円を数え、通算七九七〇万人近くの人が映画館に足を運んだ。しかし、平成八年、主演の渥美清が他界し、二六年におよぶ歴史に幕がおろされた。もう我々は新作を観ることができない。

あわやボツ寸前だった「男はつらいよ」第一作

青天の霹靂のように「寅さん」の死が伝えられたのは、平成八年八月七日だった。享年六八。死後三日たってからの発表は、私生活を隠し通してきた、いかにも渥美清らしい最期だった。八月一三日に鎌倉市の松竹大船撮影所で行われた「渥美清さんとお別れする会」には三万六〇〇〇人が詰めかけ渥美の死を悼み、九月三日には国民栄誉賞が贈られる。

「寅さん」の死が象徴するようにこれほど人々に愛された「男はつらいよ」だったが、第一作は「今さら、テレビドラマのリメイクなんて」と、ボツになる可能性もあったほど、松竹は気のり薄だった。映画公開の前年にフジテレビの連続テレビドラマ「男はつらいよ」で脚本を担当し、映画の監督・脚本をつとめた山田洋次は当時三七歳、こう振り返っている。

「仕方なくやらせてあげている、という雰囲気の中で撮ったため、全然、面白くない作品だと自分では思っていたんです。でも、映画館は笑いの渦だった」

シリーズ通算四八作、世界映画史上に燦然と輝く記録を打ち立てた「男はつらいよ」シリーズだが、第一作「男はつらいよ」は〝望まれない子ども〟として昭和四四年八月二七日に封切られたのだ。

しかし結果は、観客動員数五四万三〇〇〇人、配給収入一億一〇〇〇万円（入場料四五〇円）と好成績。松竹は、一一月に「続・男はつらいよ」、翌年一月に「フーテンの寅」、二月にも「新・男はつらいよ」とたてつづけに公開する。

「意外と多かったのが大学生、それに、いわゆる『街のあんちゃん』や職人さんも一緒になって観に来ていました。三作目までを同時上映した『寅さん大会』では、深夜にもかかわらず映画館は大盛況。不思議な出来事を遠くから見ているような気分でしたね」（山田監督）

「私、生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い、姓は車、名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と発します」。

渥美清（四一）の絶妙の仁義とともに、「寅さん」はこの年から、国民的アイドルへの道を歩み始めたのだ。

第八作では観客動員数一〇〇万人を突破。寅さんの惚れる「マドンナ」役も吉

▲第1作「男はつらいよ」のポスター。「寅さん」の歯切れのよい啖呵、口上が、この映画のひとつの魅力になっていた。

◀第15作「寅次郎相合い傘」の「寅さん」と浅丘ルリ子。浅丘ルリ子はドサまわり歌手・リリーの役で、このシリーズのマドンナとして、4回も出演している。もちろん最多登場。

時代の気分に合って
「国民的映画」に成長

永小百合（第九作）、八千草薫（第一〇作）、浅丘ルリ子（第一一作）、岸恵子（第一二作）といった人気女優を起用し、常に二〇〇万人をねらえる映画、盆暮れの定番映画として定着した。

「男はつらいよ」がヒットし、後年まで安定した人気シリーズとなったのは、第一には渥美清の卓抜な芸があったからだと、映画評論家の佐藤忠男は言う。

「初めの一〇本くらいは渥美清のワンマンショーでした。あれは浅草の伝統芸にしっかり結びついた芸の持ち主でなければ演じきれないものなのです」

寅さんの妹・さくら（倍賞千恵子）の夫・博を演じた俳優の前田吟は、渥美についてこう語る。

「渥美さんは一発目のリハーサルの時から、ものすごく芝居がうまかった。そのまま本番用にとっておきたいくらい、みごとでしたよ」

さらに一九六〇年代から七〇年代にかけての日本人の気分が、「男はつらいよ」を国民的映画にまで押し上げた。

「『男はつらいよ』はヤクザ映画の市民版なんです。一九六〇年代のアナーキーな空気の中で若者たちから支持されていた東映ヤクザ映画の要素を、保守的な市民社会に取りこむ妥協点をみいだしたのがあの映画だったと言えます。

寅さんは、自由への憧れと壊れゆく共同体秩序へのノスタルジーという、当時の日本人の矛盾した気分を代弁していたんです。そして社会の対立や矛盾も、映画館の中では解消されていた。だからこそ誰もが楽しめた国民的映画と呼べるのです」（前出・佐藤忠男）

▲第16作「葛飾立志篇」でのレギュラー出演者たち。「寅さん」を中心に妹・さくらの倍賞千恵子、その夫の前田吟、御前様の笠智衆、おいちゃんの下條正巳、おばちゃんの三崎千恵子、タコ社長の太宰久雄ら。マドンナは樫山文枝。

▶第一作「男はつらいよ」で、「寅さん」の幼なじみで初マドンナ役を演じた光本幸子。

▶第一三作「寅次郎恋やつれ」の吉永小百合。作家の娘で、陶芸家の夫と死別した役だった。

▶第二七作「浪花の恋の寅次郎」で、芸者役の松坂慶子。

▶第三四作「寅次郎真実一路」で、人妻・ふじ子役の大原麗子。

▶第三六作「柴又より愛をこめて」で、小学校の先生役の栗原小巻。

▶第三八作「知床慕情」で、居候先の獣医の娘を演じた竹下景子。

女たちの肖像　稲葉真弓

ジョン・レノンと結婚　オノ・ヨーコの〝ベッドの平和〟一週間

▲ジョン・レノンとともに、世界中の人に、〝愛と平和〟を呼びかけたオノ・ヨーコ。

前衛芸術家、詩人、作曲家、彫刻家。オノ・ヨーコには万華鏡のような顔があるが、彼女を世界で最も有名な日本人女性にしたのはなんといっても元ビートルズのリーダー、ジョン・レノンとの結婚だろう。

この年の三月二〇日、ジブラルタルで結婚式をあげた二人はオランダに飛び、アムステルダムで〝ベッドの平和〟と称するパフォーマンスを行い世界中のマスコミをにぎわした。二人はヒルトン・ホテルの一室で一週間ベッドにこもり、シャンパンとキャビアをかたわらにテレビ記者会見を行ったのである。この時ロンドンの夕刊紙は「ジョンとヨーコの狂った狂った世界」と大見出しを掲げたというが、動機は「ベトナム戦争に反対するため」世界の人に〝愛と平和〟を呼びかけようというものだった。

当時オノ・ヨーコは三六歳。「ハプニングの女王」「前衛芸術のクイーン」「ヒッピーの女王」などと呼ばれていたが、素顔は名家の令嬢である。父は東京銀行サンフランシスコ支店副頭取だった小野英輔、母・磯子は安田財閥の本家の末娘。幼少の頃は鎌倉の広大な別荘で家庭教師に囲まれて育ち、昭和二七年学習院大学哲学科入学後、父親の住むニューヨーク郊外に移った。彼女の才能が花開くのはサラ・ローレンス・カレッジで作曲や詩を学んでから。アーティストとして活動を始めた彼女は三一年、作曲家・一柳慧と駆け落ちして結婚、三九年離婚、同年前衛芸術家のアンソニー・コックスと再婚、一女をもうけた。

ジョンとの出会いは四一年ロンドンで開かれた彼女の個展の会場だった。妻子のあったジョンが「私は雲です。空にいる私をみつけなさい」というヨーコからの手紙を読んで感動、結婚を決意したという話は印象的である。

ジョンとの結婚で彼女は「ビートルズを解散させた女」「魔女」「ドラゴン・レディ」などという烙印を押されたが、二人は人生のパートナーとして互いを認めあい、一時は別居したものの一人息子をもうけ、愛の関係は昭和五五年一二月八日、ジョンがニューヨーク市マンハッタンの自宅ダコタハウスの前で凶弾に倒れた悲劇の日まで続いた。現在の彼女はニューヨークを拠点にロックオペラを制作したり、詩作にアートにと旺盛な活動を続けている。

勝者・敗者　阿部珠樹

元祖〝甲子園のアイドル〟太田幸司と伝統校の対決

ひとつの試合が、スポーツの枠を越え、時代の象徴としての意味を持つことがある。この年の夏の高校野球決勝は、まさにそうした象徴的な試合だった。

対戦したのは愛媛県の松山商業と青森県の三沢高校である。松山は戦前からいくたの名選手を生んだ日本有数の野球どころ。統率の取れたチームワークと猛練習。松山商業は日本の伝統的な価値観がユニフォームを着ているようなチームだった。一方の三沢高校は、野球不毛の地といわれる青森県で、米軍基地の少年野球からスタートした選手が主力になっていた。日本的な伝統からこれほど遠いチームもなかった。

時代は学生運動の嵐が吹き荒れ、伝統的な価値観と、新しい価値観がぶつかり合っていたが、甲子園もその例外ではなかったのだ。

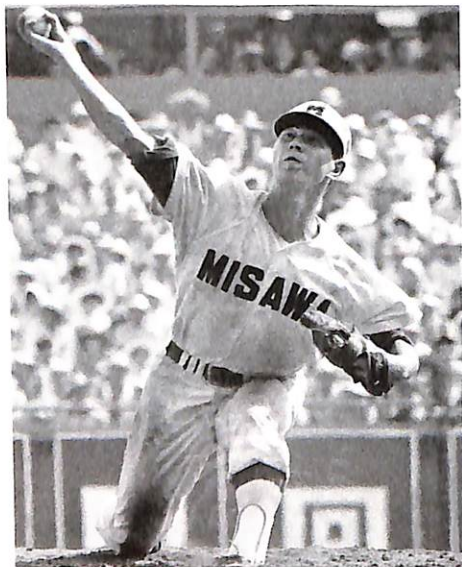
試合はまれにみる投手戦となった。松山の井上明は、小柄な体から丁寧にコーナーをつく投球で三沢の攻撃の芽を摘み取り、三沢の太田幸司（一七）は、足を高く上げる豪快なフォームから、重いストレートを投げこんで、松山打線に得点を許さない。

特に太田の投球は冴えた。初回、二つの四球でピンチに立たされたが、決定打を許さず、以後は散発でヒットは許すものの、危なげない投球を続ける。

白眉は九回無死で安打を許した場面だった。ここで松山商業は、三人続けてバントという奇策に出る。一点取れば勝負は決まる。打球が転がりさえすれば、相手がミスする確率も高い。いかにも伝統校らしい考え抜かれた作戦である。だがその揺さぶりにも太田は動じなかった。延長に入ると太田の投球は力強さを増し、ついに一八回を無失点におさえる。しかし、打線の援護がなく、試合は大会史上三度目、決勝戦では初の引き分け再試合となった。

「まだ投げられます。でも、相手には二人の投手がいますが、ぼくは一人で投げ抜かなければならない」

試合後、太田は自分を奮い立たせるように語った。

翌日の再試合では疲れの見えた太田から松山打線が四点を取り、三沢の追撃を二点におさえこんで優勝をはたしたが、伝統校に一人で立ち向かい、延長、再試合を投げ抜いた太田にはアイドル顔負けの熱狂的な人気が沸き起こった。

▲力投する三沢高校・太田幸司投手。　共同通信社

ニュース・ファイル

1969

フォト＋日録で再現する365日

路面電車が各地で姿を消し、蒸気機関車は最盛期の二分の一にまで減少した。一方で、東名高速道路が全通、銀行は現金自動支払いサービスを開始、原発建設も本格化する。そして、「イザナギ景気」五年目のこの年、原子力船「むつ」が華々しく進水した。

◀原子力船「むつ」進水（6月12日）日本原子力船開発事業団が平和利用の特殊貨物船として開発。原子炉は加圧水型炉で、全長130メートル、8350総トン。東京の石川島播磨重工業造船所で祝賀式が行われた。

時事通信社

朝日新聞社

▲羽田税関に初の女性検査官（1月6日）東京国際空港の旅具検査場に19～35歳までの11人が勤務。年始を香港やハワイですごし、お土産をいっぱい抱えた帰国者たちをさっそうとさばいた。

毎日新聞社

▲「状況劇場」唐十郎ら、逮捕（1月3日）都立新宿中央公園に無許可で紅テントを張ったため警察が出動、「帰れ帰れ」と叫ぶ観客とにらみ合った。写真は上演中の「腰巻お仙・振袖火事の巻」。終演後3人が逮捕された。

朝日新聞社

▶鉱石運搬船「ぼりばあ丸」沈没（1月5日）大しけに遭い、千葉県野島崎沖で船体が裂けた。乗組員二人は救助されたが、31人が行方不明。写真は漂流する無人のゴムボート。

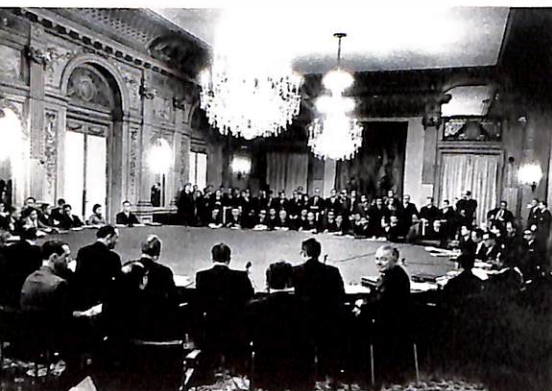
▼ベトナム和平拡大パリ会談始まる（1月25日）南・北ベトナム、解放戦線、米国の4代表による初の実質討議。「北は南から引揚げろ」「侵略を中止せよ」など6時間半にわたる舌戦が続き、前途多難を思わせた。

PANA通信社

読売新聞社

▶青島幸男議員、壇上に立つ（1月31日）前年の参院選で話題になったタレント議員が参院で代表質問。「政財界の腐れ縁は学生のゲバ棒より悪質」などと嚙みついたが、佐藤首相に「青島君と憂いは同じ」といなされた。

朝日新聞社

◀歩道の敷石を撤去（1月21日）東大闘争を支援する反日共系学生らが18日、東京の学生街、神田の街路を占拠（カルチェラタン闘争）、敷石をはいで機動隊に投石した。撤去はその予防策で、警視庁が5万枚を運び去った。

昭和44年1月

1（水）●サッカー天皇杯でヤンマーが初の日本一に。

2（木）●奥崎謙三、皇居一般参賀で天皇に向かってパチンコ玉四発を撃つ。奥崎はその場で自首。

3（金）●唐十郎の状況劇場、新宿中央公園で無許可公演。機動隊出動し、公演終了後、唐ら三人逮捕。

4（土）●高知県で結婚断られ一家七人殺傷の男逮捕。

5（日）●大型鉱石運搬船「ぼりばあ丸」、野島崎沖で船体が二つに折れて沈没。三一人行方不明。

6（月）●羽田税関に空港初の女性検査官が配属される。
●NET、「ひみつのアッコちゃん」放映開始。

7（火）●北陸本線の頸城トンネル、貫通式挙行。

8（水）●総評、石炭産業国有化を要求し、炭労労組員三万人の首相宛退職届を通産相に提出。

9（木）●トヨタ、前年の自動車生産は世界六位と発表。

10（金）●スウェーデン、北ベトナムを承認（西側で初）。

11（土）●東京―石打間に初のスキー特急「新雪」運行。
●米映画「ローズマリーの赤ちゃん」封切。

12（日）●米軍機が入間市の山林に墜落。乗員二人死亡。

13（月）●東鉄局、通勤対策本部を設置。前年の二五㌫増、二五五七人の「尻押し部隊」を配置。

14（火）●一〇㌃三万五〇〇〇円の稲作転換奨励金決定。

15（水）●米のロッキード社、児玉誉士夫と五〇〇〇万円でコンサルタント契約（51年表面化）。

16（木）●ソ連宇宙船「ソユーズ」4・5号、世界初の有人宇宙ドッキングと乗員乗り移りに成功。

17（金）●全沖縄軍労組、米民政府による総合労働布令（スト禁止など）撤廃要求の総決起集会開催。

18（土）●東大で安田講堂攻防戦。機動隊八五〇〇人が講堂包囲。神田では学生が解放区闘争。

19（日）●安田講堂陥落。学生六三一人逮捕。

20（月）●東大入試の中止が正式に決定する。

21（火）●警視庁、投石防止に神田の敷石五万枚はがす。

22（水）●家電・楽器・金融業界、月賦代金回収のため共同信用調査機関設立で合意、と新聞に。

23（木）●文部省、能検テストを今年から廃止と決定。

24（金）●美濃部都知事、都営ギャンブル廃止を発表。

25（土）●第一回ベトナム和平拡大パリ会談討議始まる。

26（日）●大相撲で大鵬が八回目の全勝優勝（タイ記録）。

27（月）●全国的に異常高温。東京では二〇度を超え、鹿児島市では一ヵ月早くサクラが満開。

28（火）●都内公衆浴場が適正入浴料金求め一斉休業。

29（水）●横浜市の人口、前年一年で一〇万人増と判明。

30（木）●佐藤首相、中国政府承認は考えず、と表明。

31（金）●京大教養部、総長辞任など要求し無期限スト。

▶石炭運搬船「慶洋丸」座礁（2月5日）北海道・留萌港近くで針路を誤った。天候が悪く救出は難航、7日に自衛隊ヘリが12人を救出（写真）したが、8人はすでに死んでいた。

朝日新聞社

▲アラファト、PLO議長に選出（2月4日）最大の反イスラエル・ゲリラ組織の指導者で、パレスチナ奪回を宣言、アラブ各国の強い支持を受けた。写真は12月21日、アラブ首脳会議開会式でVサインする新議長。

▲自衛隊機、住宅街に墜落（2月8日）航空自衛隊小松基地を飛び立ったジェット戦闘機が落雷により金沢市に墜落、爆発・炎上した。民家14戸が全半焼し、4人が死亡、19人が重軽傷を負った。

朝日新聞社

▶伊勢神宮の宇治橋かけ替え（2月）昭和48年の遷宮をめざして工事。従来の橋を解体するため、聖域の五十鈴川にクレーン車などが入った。新橋は橋脚の一部がコンクリート製になる。

読売新聞社

▲機動隊に守られて入試（2月7日）紛争中の大学で最初に入試を迎えた西宮市の関西学院大学は兵庫県警に警備を要請。反対派学生の怒号が響く中で試験を行った。

読売新聞社

▶東京タワーに大気汚染立体測定室（2月15日）12日に決まった亜硫酸ガス環境基準を受けて設置。大気中の濃度を自動的に記録する。始動ボタンを美濃部都知事が押した。

昭和44年2月

1（土）●「セブンスター」発売。一箱一〇〇円。
●三船敏郎主演の映画「風林火山」封切。
●被差別部落テーマの映画「橋のない川」公開。
●大阪国際空港の新ターミナルビル開業。

2（日）●沖縄でのB52撤去要求ゼネスト中止決定（4日、五万五〇〇〇人が総決起大会開催）。

3（月）●名古屋市の人口が二〇〇万人突破。四市目。

4（火）●パレスチナ解放機構議長にアラファト選出。

5（水）●郡山市の磐光ホテルが全焼。三一人死亡。

6（木）●東京都『水質白書』。家庭排水が第一の汚濁源。

7（金）●郵便貯金の現在高が五兆円を突破。

8（土）●金沢市で自衛隊機が墜落。住民四人死亡。

9（日）●米でジャンボ機ボーイング747が初飛行。

10（月）●初の自閉症児治療センターが東京に完成。
●東洋一の東京駅八重洲地下街が開業。

11（火）●韓国では来年から漢字全廃、と新聞に。

12（水）●閣議、亜硫酸ガスの環境基準を決定。公害対策基本法に基づく環境基準第一号。
●〝天才レーサー〟福沢幸雄、レーシングカー「トヨタ7」のテスト走行中に事故死。

13（木）●日ソ航空交渉妥結。シベリア上空が初めて外国の航空会社に開放される。

14（金）●日体協、アマ規程の大幅緩和方針を決定。

15（土）●東京地裁、性転換手術行った医師に有罪。

16（日）●都営小平霊園の競争率が一〇倍に、と新聞に。

17（月）●薬剤承認汚職で厚生省薬事専門官ら三人逮捕。

18（火）●日大、機動隊導入し八ヵ月ぶり全学封鎖解除。

19（水）●防衛施設庁、北海道の米軍名寄演習場全面返還で日米合意と発表。

20（木）●飲酒運転の人身事故は免許没収と警視庁発表。

21（金）●『農業白書』。農家所得が年一〇〇万円超える。
●日産、S20型エンジン搭載「スカイライン2000GTR」発売。

22（土）●岡山県、過疎市町村への県職員派遣を決定。

23（日）●安中市の東邦亜鉛安中製錬所周辺でイタイイタイ病患者が多発、と新聞に。

24（月）●国労、東京鉄道管理局分割反対の順法闘争。

25（火）●タブロイド判駅売り夕刊紙「夕刊フジ」創刊。

26（水）●四三年一一月期法人申告所得、松下電器が日銀を抜いて一位と国税庁発表。

27（木）●最高裁、森永砒素ミルク事件で一審の無罪判決を破棄した二審判決を支持し上告を棄却。

28（金）●炭労労組員二〇〇〇人が国会構内に乱入（3月1日、五二山で廃山反対のスト）。

読売新聞社

▲米韓合同演習、北進を想定（3月17日）フォーカス・レチナと称する訓練を実施。超大型機を使用、米東岸から沖縄経由、韓国に兵員・兵器を降下させた。北朝鮮の侵略を抑止するねらいと説明された。

◀ビートルズのジョン・レノン（28）、オノ・ヨーコ（36）と結婚（3月20日）ヨーコは前衛芸術家・詩人。写真は25日、アムステルダムのホテルで平和運動のための儀式、「ベッド・イン」を行う二人。

時事通信社

▲日大全共闘議長・秋田明大捕まる（3月12日）公務執行妨害・凶器準備集合罪などの容疑で逮捕状が出てから半年ぶり。全共闘系学生の拠点を泊まり歩いていたが、この日、渋谷区の友人宅で雪かき中に通報された。

毎日新聞社

▲大阪市電廃止（3月31日）大阪港と市内を結ぶ交通機関として明治36年（1903）に開通、その後周辺にも路線を拡大した。自動車交通未発達の時代には、市民の貴重な足として親しまれた。

▼横綱大鵬、連勝45で止まる（3月10日）対戦相手は前頭筆頭の戸田。軍配ははたき込みで大鵬（背中）に上がったが、差し違えで敗れた。判定に対するファンの不満の声は強くビデオカメラ導入のきっかけとなった。

▼中ソが武力衝突（3月2日）ウスリー川のダマンスキー島（中国名・珍宝島）で死傷者多数を出した。国境がからむこの島の帰属をめぐり、百余年前から論争や小競り合いが続けられていた。写真はソ連が発表した「挑発する中国兵」。

ノーボスチ通信社

共同通信社

昭和44年3月

1（土）●第二次資本自由化措置。二〇四業種に拡大。

2（日）●中ソ国境のダマンスキー島（珍宝島）の帰属めぐり両国が武力衝突（15日再度衝突）。

3（月）●マイカー族の増加で、大型駐車場つきのボウリング場やモーテルが盛況、と新聞に。

4（火）●合繊各社、東南アに工場進出積極化と新聞に。

5（水）●武田泰淳、芸術選奨の受賞を拒否。

6（木）●P・F・ドラッカー『断絶の時代』刊行。

7（金）●総理府、就業構造基本調査結果を発表。第三次産業と女性パートタイマーが増加。

8（土）●大蔵省『密輸白書』を発表。金の密輸が急増。

9（日）●米・韓両国、大規模な軍事演習開始（〜20日）。

10（月）●佐藤首相、衆院予算委で、沖縄返還は「核抜き・基地本土並み」で米を説得と言明。

11（火）●『漁業白書』。就業者が初めて六〇万人割る。

12（水）●東京で積雪三〇㌢を記録。史上二番目。
●日大全共闘議長・秋田明大、潜伏先で逮捕。

13（木）●都立武蔵丘高校卒業式場に覆面姿の高校生二十数人が乱入し占拠。警官隊により排除。

14（金）●北方領土を国土地理院の地図に加えると決定。

15（土）●劇団天井桟敷の専用劇場・天井桟敷館が開館。

16（日）●全国七六ヵ所で一七万人が反安保集会開催。

17（月）●イスラエルでゴルダ・メイア内閣発足。世界で三人目の女性首相。

18（火）●相撲協会、ビデオを勝負判定の参考にと決定。

19（水）●文部省、相次ぐ自衛官受験拒否に関し、拒否は不当と全国の大学・短大に通達。

20（木）●ジョン・レノンとオノ・ヨーコが結婚。

21（金）●船頭ストで中断していた四〇〇年の歴史を持つ京都の保津川下りが一年ぶりに再開。

22（土）●大阪高裁、バー・キャバレーなどでのレコード無断使用に著作権侵害を認める。

23（日）●汚職など不祥事による地方公務員処分は、三年間で八五二三人、と新聞に。

24（月）●救急車出動は一〇年で五・三倍と消防庁発表。

25（火）●東京の銭湯料金値上げへ。大人三五円。

26（水）●航空自衛隊、バッジ・システム（自動防空警戒管制組織）の運用を開始。

27（木）●動燃、高速増殖炉燃料の国産化に成功と発表。

28（金）●オリンパス光学、世界初の大腸検診用ファイバースコープを実用化と発表。

29（土）●営団地下鉄東西線（中野—西船橋間）、全通。

30（日）●海老原博幸、世界フライ級王座に返り咲く。

31（月）●交通遺児育英会設立。九月から奨学金貸与。

▲沖縄デーで夜の東京が大混乱(4月28日)首相官邸占拠などを叫ぶ学生らが東京駅ホームを占拠するなどゲリラ闘争を展開、965人が逮捕された。写真はこの日の銀座の様子。

読売新聞社

▲学園紛争、高校に飛び火(4月8日)2月以降、全国七十余ヵ所で卒業式粉砕などの騒ぎが起き、4月になっても過激な行動は続いた。写真は校内集会でアジる大阪府立高津高校の全闘委生徒。

毎日新聞社

▲北朝鮮、領空侵犯の米偵察機を撃墜(4月15日)厚木基地を出発した機体とともに乗組員31人が行方不明。写真は2日後に日本海で発見され、20日、佐世保基地におろされた2遺体。

共同通信社

▼毛沢東、文革の推進者を重用(4月14日)中国共産党の第9回全国大会で林彪が主席後継者に指名され、江青らが中央委員に選出された。写真は冒頭で団結を呼びかける毛沢東。

新華社/中国通信

▶日光の太郎杉伐採訴訟で建設省敗訴(4月9日)宇都宮地裁が「文化財は復元できない」と、国の道路拡幅工事を否定。翌年、東京高裁が一審を支持、建設省は上告を断念した。

朝日新聞社

▶全国サラリーマン同盟結成(4月13日)サラリーマンの団結と課税不合理の「撃滅」を掲げて旗揚げ。大阪・静岡などの各支部代表ら約200人が集まった。壇上は代表委員の愛知教育大教授・青木茂。

昭和44年4月

1(火)●丸善石油のCM「Oh! モウレツ」放映開始。
●前年の離婚は八万七〇〇〇件と厚生省発表。

2(水)●北海道の雄別炭鉱でガス爆発。一九人死亡。

3(木)●横須賀市の造船所で、貨物を積んだ艀をそのまま運ぶ世界初のラッシュ船が進水。

4(金)●帝劇で市川染五郎の「ラ・マンチャの男」初演。

5(土)●**皇居外苑に北の丸公園が完成。**

6(日)●周恩来、古井喜実らと会談し対中国政策非難。

7(月)●**連続射殺事件容疑者の永山則夫、都内で逮捕。**

8(火)●米原潜寄港地の佐世保・横須賀・那覇の三市が放射能等対策連絡協議会を結成。

9(水)●政府買い入れ米一千万トン突破。米余り急拡大。

10(木)●警視庁、少女一一人を芸者置屋に斡旋した暴力団員ら一〇人をこの日までに逮捕。

11(金)●東芝、独身男性など対象に銀座で料理教室。四〇人の定員に一日で申し込みオーバー。

12(土)●直江津―ナホトカ間の海底電信ケーブル接続。

13(日)●**全国サラリーマン同盟(代表・青木茂)、結成。**
●NHK教育テレビが「コンピューター講座」放映開始。テキスト七〇万部が売れる。

14(月)●**中国共産党大会、林彪を毛沢東の後継と決定。**

15(火)●水俣病を告発する会、発足。
●森進一の「港町ブルース」発売。

16(水)●炭労、石炭産業縮小策を原則的に了承。

17(木)●**チェコ共産党のドプチェク第一書記、辞任。**

18(金)●皇太子夫妻に第三子誕生(紀宮清子内親王)。

19(土)●国立予防衛生研、ライ菌培養に成功と発表。

20(日)●外貨準備高の急増で、大蔵省は外貨蓄積中心の国際収支対策を再検討、と新聞に。

21(月)●ボストンマラソンで采谷義秋が大会新で優勝。

22(火)●群馬県衛生研、東邦亜鉛安中製錬所周辺の大気から高濃度のカドミウムを検出と発表。

23(水)●社会党本部に右翼が乱入、書記局員三人重傷。

24(木)●地震予知連絡会が発足。

25(金)●国鉄、東京―大阪間にノンストップの特急貨物列車「フレイトライナー」運行開始。

26(土)●新潟県広神村で土砂崩れ。八人行方不明。

27(日)●日本テレビ「コント55号! 裏番組をブッ飛ばせ!!」放映開始。

28(月)●社共が沖縄返還要求統一大会。反共産党系各派は銀座を中心に街頭闘争。九六五人逮捕。
●**仏のド・ゴール大統領、辞任。**

29(火)●日ソ漁業交渉妥結。サケ・マスは一三〇〇トン増。

30(水)●中教審、大学への文相権限強化と文相に答申。

日刊スポーツ

▲本命落馬(5月25日)東京・府中の東京競馬場で行われた第36回日本ダービーで、タカツバキがスタート直後に転倒、島田騎手を振り落とした(左端)。レースは56億円余の売り上げ新記録だった。

証言・あの日この日
安藤鶴夫(60)

2月1日(土) 〈このあいだ、「こんにちは奥さん」というテレビの、ゲストで出た時、「猛烈社員」という特集をしていてね。齊藤なんかがみたら、目をまわしそうな、すごい、猛烈社員ばかりが、ずらり、並んでいるのを、NHKのスタディオの、こっちのコーナーからみていて、びっくりしたのは、まるで、いいあわしたように、黒の背広に、テレビを意識したのであろうか、揃って、縞のネクタイなんだな〉(安藤鶴夫『ごぶ・ゆるね』)

安藤が語りかけている齊藤とは、大学時代の同級生でボードレールやリラダンの名訳者として知られる仏文学者の齊藤磯雄のことだ。齊藤の勤務先、明治大学の近くを歩いていた安藤は最近の学生たちの服装のだらしなさに憤り、学生時代の齊藤のダンディな黒背広を思い出し、連想はさらに今どきの黒背広族に向かう。　(坪内祐三)

毎日新聞社

◀消える玉電(5月10日)62年間親しまれてきた東京の東急玉川線が廃止された。路面走行のない三軒茶屋―下高井戸間は残し、バス路線に転換、後に地下鉄新玉川線として再生。写真は「蛍の光」で送られる最終電車。

▼三島由紀夫vs東大全共闘(5月13日)呼び以上に応じた"論客"が、800人以上の学生たちを相手に、東京・駒場の東大教養学部教室で空間・時間、天皇、美などをテーマに2時間以上の論戦に挑んだ。

▼東名高速道路全通(5月26日)大井松田―御殿場(写真)間が完成、これで東京から愛知県小牧市までの約347キロが全通した。また名神高速道路と接続、東京―大阪間が1本の高速道路で結ばれた。

時事通信社

共同通信社

昭和44年5月

1(木)●**「イザナギ景気」が四三ヵ月目に突入。「岩戸景気」の四二ヵ月を抜く。**

2(金)●前年度国際収支発表。一六億三〇〇〇万ドルの黒字で、過去最高だった昭和四〇年の四倍。

3(土)●富士スピードウェイで日本初のインターナショナル・フォーミュラーカー・レース開催。

4(日)●北九州市で、公園に放置されていたアイスボックス中で窒息死した小学生二人の遺体発見。

5(月)●名古屋の中日放送で火災。テレビ放送中断。

6(火)●全沖縄軍労組、ベトナム行きを拒否すれば解雇とタグボート乗員に通告した米軍に抗議。

7(水)●東京国立近代美術館、完工式。

8(木)●八王子市の丘陵に、都心からの寺院移転がさかん、檀家はハイキング気分で墓参、と新聞に。

9(金)●国大協、大学立法に反対し文相に要望書。

10(土)●東大の"ゲバルト・ローザ"柏崎千枝子、教官一二人監禁の容疑で起訴される。
●国鉄、一・二等廃止しグリーン車料金を新設。

11(日)●「ニューヨーク・タイムズ」紙、トヨタと日産が欠陥車を秘密裡に回収と暴露。

12(月)●**三菱重工、クライスラー社と合弁覚書に調印。**

13(火)●東大で全共闘と三島由紀夫が討論集会。

14(水)●**警視庁、新宿駅西口のフォーク集会を禁止。**

15(木)●総合エネルギー調査会、燃料の低硫黄化推進のための専門部会設置を決定。

16(金)●**政府、自主流通米制度の導入を決定。**

17(土)●**電電公社、プッシュホン電話の受け付け開始。**
●東京都宝籤の一等賞金が五〇〇万円から一〇〇万円に減額される。

18(日)●「アポロ10号」打ち上げ。初のカラー生中継。

19(月)●四・二八沖縄デーに破防法の扇動罪初適用。

20(火)●**立命館大全共闘、「わだつみの像」を破壊。**

21(水)●通産省、カドミウム汚染で足尾鉱業所を検査。

22(木)●体にフィットするワイシャツが人気と新聞に。

23(金)●初の『公害白書』発表(後の『環境白書』)。

24(土)●岩下志麻主演「心中天網島」封切。

25(日)●ダービーの売り上げが五六億円余の世界記録。

26(月)●**東名高速道路、全線開通。名神高速とも直結。**

27(火)●東京美術倶楽部で日本初の美術オークション。

28(水)●相撲協会、大関の連続負け越しは転落と決定。

29(木)●高橋和巳・野村修ら全共闘を支持する二〇〇人の大学教官が「大学を告発する」報告集会。

30(金)●閣議、新全国総合開発計画を決定。

31(土)●東京都、「スピード籤」の廃止を決定。

朝日新聞社

▲国鉄ハイウェイ・バス営業開始(6月10日)前月に全通した東名高速道路の東京一名古屋間を5時間30分で結ぶ。定員40人、冷暖房・トイレつき。写真は東京駅八重洲口で行われた出発式。運賃は1600円だった。

◀ロングスカーフ流行(6月)5月頃から若い女性の間で目立ち始め、ミニのワンピースと合わせた。11月の佐藤首相訪米時の寛子夫人もこのファッション。

朝日新聞社

▶南ベトナムに臨時革命政府(6月8日)全土から集まった88人の代表により、6日から8日にわたって開かれた特別会議(写真)で決定。首班には解放戦線副議長ファトが就任した。

共同通信社

◀人家密集地帯でガス爆発(6月11日)東京・荒川区尾竹橋通りの地下鉄工事現場で漏れていたガスに引火。鉄板100枚が周囲に吹き飛び、5人死亡、ガラス戸の破損が相次いだ。

読売新聞社

▶全沖縄軍労組、初の24時間スト(6月5日)賃上げ、解雇撤回などを要求、基地ゲートなどでピケを張ったが、米軍が写真のように銃剣で威嚇したため、まだ占領意識を捨てていないと問題になった。

◀出入国管理法案粉砕闘争(6月1日)現行令の改悪だとして各地で反対運動が起こった。写真は新左翼系の「粉砕実行委」が東京・芝公園で行ったデモ。約10人の欧米人も参加。

朝日新聞社

沖縄タイムス

昭和44年6月

1(日)●反戦青年委、三都市で出入国管理法反対集会。
2(月)●東京都多摩町で多摩ニュータウンの起工式。
3(火)●愛知外相、米国務長官に安保自動延長を提案。
4(水)●国鉄、盲導犬の新幹線への乗車を認める。
5(木)●東大闘争裁判で、統一公判を要求する被告が出廷拒否。東京地裁は欠席裁判を強行。
6(金)●低アルコールビール「サッポロライト」発売。
7(土)●大宮市の自治会が三菱原子力工業研究所に設置された実験用原子炉の撤去を求め提訴。
8(日)●伊東市でASPAC(アスパック)会議(9～11日)反対の学生が機動隊と衝突。八～九日で二八九人逮捕。
9(月)●IOC、選手への金銭援助を容認する国際スキー連盟の新規定を条件つきで承認。
10(火)●経企庁、日本のGNPは世界第二位と発表。
11(水)●トヨタ・日産、欠陥車は一九車種・四七万台と公表(16日、全メーカーで二四六万台に)。
12(木)●日本初の原子力船「むつ」が進水。
13(金)●日立、レーザーでの衛星追跡に成功と発表。
14(土)●水俣病患者ら一一二人、チッソへの六億四二三九万円の賠償請求を提訴。
15(日)●東京・日比谷で六・一五反戦・反安保集会。手配中の東大全共闘代表・山本義隆が登壇。
16(月)●全逓(ぜんてい)、四万人合理化案に反対し超勤拒否闘争。
17(火)●台湾政府、日本への留学に一時禁止措置。
18(水)●札幌高裁、白鳥(しらとり)事件(27年1月)の再審棄却。
19(木)●東京国税局、社用海外旅行の実態発表。社費による観光旅行は給与とみなして課税と警告。
20(金)●ローデシアの国民投票が「英からの独立」支持。
21(土)●都内の幼児の交通死亡事故は前年の倍と判明。
22(日)●一九五八年から一〇年間の工業生産、増加率世界一は日本の二四五％と国連統計。
23(月)●ウ・タント国連事務総長、「人間の環境に関する諸問題」発表。世界的な環境破壊を警告。
●都市銀六行参加し、ユニオンクレジット発足。
24(火)●学習院大で開学以来初の全学封鎖スト。
25(水)●二〇万トンタンカーが堺(さかい)港防波堤に激突、座礁。
26(木)●厚生省、生鮮食品の着色や漂白を全面禁止する方針を決定。
27(金)●硫黄島で遺族代表が戦没者顕彰碑の除幕式。
28(土)●新宿駅西口のフォーク集会に七〇〇〇人参集。機動隊と衝突し、六四人逮捕。
29(日)●東京・池袋のデパートでゾウなどの動物セール。トラが五〇万円で売れる。
30(月)●自民党、靖国神社国家護持法案を国会に提出。

20世紀博物館

竹中大工道具館

〝木の国〟のワザと心を伝える収蔵品二万点余

兵庫・神戸市

桑原茂夫

▲ここに並べられたおよそ180点の道具が、一人前の大工にとって必要なものだった。 石井美雄

一九六〇年代後半なら、都市部でもたまに大工(だいく)さんの姿を見かけることができた。釘(くぎ)をたくさん口にくわえて、一本一本すばやく取り出しながらストトン、ストトンときれいに打ちこんでいくリズムや、鉋(かんな)から魔法のように出てくる、木目が透けて見える薄い鉋屑(くず)の匂いは、かすかに残っていたのである。

しかし、それから二〇年たらずの間に、ほとんど忽然(こつぜん)と大工さんは姿を消していった。大工さんのあのワザはまさしく〝木の国〟のワザ。ただごとではないワザだった。それもまた消えてしまったというのだろうか。

そんな思いを抱きながら、竹中大工道具館を訪れた。

その名からも推察できるように、この博物館は大手建設会社である竹中工務店が企画し、昭和五九年に開館。現在は財団法人竹中大工道具館がその運営にあたっている。

▲木組みは、個々の材質を考えて行われる。

◀法隆寺建立に使われたと思われるのこぎりを復元したもの。

竹中工務店は一六一〇年代、慶長(けいちょう)年間に創業したというから、木造建築への思いは深い。それで博物館建設の趣旨も〝木造建築の技術と心を残したい〟という一点にあった。木造建築は、生きた木を相手に、生きた人間がチームを組んで行う作業だ。そこで用いられた道具も生きている。だから〝残す〟といっても、ただそこに置いておけばいいというものではなかった。

これは観念的な話ではない。古代の道具のレプリカなどをのぞいて、ここに展示されている道具は手入れをおこたらず、いつでも使える状態にしてあるというのだ。実際、地下の収蔵室の一角に、メンテナンスを行うコーナーがあって、そこでは元・棟梁(とうりょう)(大工のリーダー)が、磨いたり削ったり、道具が本来の道具であるための作業をしているのである。

ところで大工道具とひとくちで言っても、実に多種多様である。昭和一八年に労働科学研究所が調査したところ、その当時、一人前とされた大工が自分専用に持っていた道具は平均してなんと一八〇点! そのうち鑿(のみ)が五〇点、鉋が四〇点を占めていた。これらを仕事の進捗(しんちょく)状況などにあわせ、適宜選んで道具箱に入れて持ち歩いたのだという。

その種類(点数)の多さも並大抵(たいてい)ではないが、もっと驚かされるのは、それらのひとつひとつが、擦(す)り切れるまで、徹底的に使いこまれていたという事実である。館長の毛利喆夫(てつお)さんは淡々と話してくれた。

「実は、いい道具ほど残りにくいのですよ。いい道具は木の部分も鋼(はがね)の部分も、手入れを重ねて使いこむので、最後には道具としての機能をはたせなくなって、結局土に還っていくのです」

そうだ。道具も最後は土に還っていくのだ! 逆に言うと、ここにある二万点余もの道具はまだ生きている。そして、どこかへ消えてしまった大工さんと、その素晴らしいワザを待っているのだった。

●竹中大工道具館
兵庫県神戸市中央区中山手通四—一八—二五
☎〇七八—二四二—〇二一六
市営地下鉄県庁前駅下車、徒歩五分
開館時間＝九時三〇分～一六時三〇分
休館日＝月曜日(休日の場合は翌日)、年末年始
入館料＝一般三〇〇円

▶地上三階、地下一階、大工道具類二万点余収蔵。

ベストセラー

テレビの力を見せつけた！大河ドラマの原作『天と地と』

海音寺潮五郎の『天と地と』がベストセラーに名をつらねた。昭和三五～三七年に「週刊朝日」に連載され、その後、上下二巻の単行本となって刊行されたものの、あわせて数万部どまりだったこの小説が、この年、NHK総合テレビの大河ドラマとして全国に放映されるや、その廉価版（全三巻）が急速に部数を伸ばした（各巻数十万部）のである。テレビメディアの力を、出版メディアがまざまざと見せつけられたわけである。

作品は、武田信玄と上杉謙信の拮抗ぶりを、謙信の側から描いたもので、作者自身その理由を「清潔で、無欲で、心のどこかに東洋的虚無が漂い、凛乎たる男性的気概を常に持っている」謙信に惚れたからだと言う。そして、この時代の武士は、「人間自然の素直な、つまり最も高い道徳観を持っていた」という作者の見方が全編を貫いている。

しかし、作者・海音寺潮五郎は、テレビによって売れたという事実に対して、作家引退を決意するほど、このことをよしとしなかったのである。

これと一見対照的な存在だったのが、庄司薫の『赤頭巾ちゃん気をつけて』だった。この頃の政治的な雰囲気に逆らうかのように、非政治的で、弱々しく、しかしどこかスマートな都会青年を浮かび上がらせたのは、軽妙洒脱な文体にあった。かっこつきで頻繁に注釈をつけたり、文末に〝～したわけなのだ〟といった独特の言い回しを用いたりして、新しいタイプの小説を生み出した。また、時代をそのまま反映したベストセラーに羽仁五郎の『都市の論理』がある。全共闘運動のバイブルと目され、社会科学関係の本では異例のベストセラーとなった。

●昭和44年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『人間革命(5)』（池田大作／聖教新聞社）
2位	『天と地と』（全3巻／海音寺潮五郎／朝日新聞社）
3位	『対話　人間の原点』（小谷喜美・石原慎太郎／サンケイ新聞社）
4位	『科学と宗教』（池田大作／潮出版社）
5位	『都市の論理』（羽仁五郎／勁草書房）
6位	『改訂版　広辞苑』（新村出編／岩波書店）
7位	『赤頭巾ちゃん気をつけて』（庄司薫／中央公論社）
8位	『大もの小もの』（御木徳近／読売新聞社）
9位	『池田大作論』（央忠邦／大光社）
10位	『私はこう思う』（池田大作／毎日新聞社）

全国出版協会出版科学研究所

▲『天と地と』（各420円）

▲『赤頭巾ちゃん気をつけて』（360円）

▲『都市の論理』（950円）

スターと名場面

激動の時代に悲しい恋の物語「心中天網島」「私が棄てた女」

山田洋次監督・渥美清主演の「男はつらいよ」が封切られたこの年、その一方でシリアスな恋愛ドラマが話題を呼んだ。ひとつは篠田正浩監督の「心中天網島」で、近松門左衛門の原作を脚色するのに、作家の富岡多恵子と作曲家の武満徹も参加、モノクロームの幻想的な画面に黒衣を登場させるなどして、特異な映像を作り出した。

もうひとつ、浦山桐郎監督の「私が棄てた女」も、追憶の場面にグリーンがかった色彩を基調にしたフィルムを用いたり、棄てられた女が故郷を回想するシーンにカラーを用いたりして、映像による心理描写が試みられた。

いずれも、現実に押しつぶされそうになる心のありようを描き、激しく揺れ動いたこの年にふさわしい映画だった。

ほかに話題になった映画に次のような作品がある。かっこ内はおもな出演者。「橋のない川」（北林谷栄）／「人斬り」（勝新太郎、三島由紀夫）／「地獄変」（内藤洋子）／「日本暗殺秘録」（若山富三郎）／「日本侠客伝・花と竜」（高倉健、星由里子）／「尻啖え孫市」（中村錦之助）／「真夜中のカーボーイ」（ダスティン・ホフマン）／「ローズマリーの赤ちゃん」（ミア・ファロー）

日活提供

▲「私が棄てた女」で、浅丘ルリ子（右）が、自分の夫のかつての恋人・小林トシエ（左）と対峙するシーン。

東宝提供

▶「心中天網島」では、篠田監督のシャープな映像感覚が光った。中村吉右衛門（右）と岩下志麻（左）が熱演。

大島渚プロダクション提供

▶田辺茂一や唐十郎、横尾忠則（写真）らを実名で登場させ、現実と幻想を交錯させた「新宿泥棒日記」（監督・大島渚）もこの年公開。

モノ語り'69

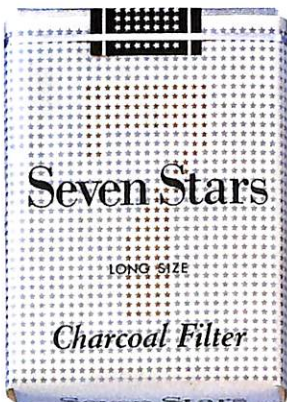
「パンティストッキング」「プッシュホン」など〝需要喚起〟型の商品群が登場

◀**水洗トイレをさらにきれいに**　トイレの芳香・防臭・防汚剤として、ロングセラーになっている「ブルーレット」はこの年の6月、1個360円（現在は250円）で小林製薬から発売された。洗浄成分ポリエチレングリコールに、青い色素と香りをつけたものだが、いつでも同じ色と香りを得る技術の開発などに4年余りの歳月を要した苦心の作で、水洗トイレの普及とともに定番商品になっていった。1個で約350回、使用できた。

▼**プッシュホンの時代に入った**　コンピュータの発達は通信革命を起こしつつあったが、電話でも、コンピュータと直結できるプッシュホン・サービスが、日本電信電話公社（現・日本電信電話）から発売された。通常の電話機能のほか、短縮ダイヤル機能や計算機機能も付加して、電話のイメージを変えた。

▲**ミニスカートにあったパンティストッキング**　シームレスでストッキング革命を起こした厚木ナイロン商事が、続いて大ヒットさせたのが「パンティストッキング」（500円）だ。湿度の高い日本の気候には向かないのではという懸念を、レッグ上部の目を粗く編む技術を開発してクリア。折からのミニスカートブームとあいまって、この年には女性の必需品となった。なおパンティストッキングという名称は、創業者による造語で、英語ではない。

▶**実際に調理するおもちゃ**　アサヒ玩具が発売した「ママレンジ」が、女の子たちの間で大流行した。実際にコンセントを差しこんで電源を確保するところから、この遊びは始まる。電気コンロの上に、フライパンがのっており、ここに油をひいて、本物のホットケーキや目玉焼きを作ることができた。フライパンが小さくて厚みもないため、調理できるものは限られたが、子どもたちには十分楽しめた。

▼**とうとうナナハンが生まれた**　この年8月10日「ホンダドリームCB750　FOUR」が本田技研工業から発売された。排気量736ccで、4気筒のエンジンを持つ、さっそうたる〝ナナハン〟の登場だった。高性能エンジンを搭載するために、変形しにくいダブルクレードル式のフレームを採用、ブレーキも高性能のディスクブレーキという豪華仕様で、〝最も速いマシン〟の名をほしいままにした。価格は38万5000円だった。

◀**CMで万年筆が話題になった**　パイロット万年筆（現・パイロット）が大橋巨泉の軽妙なCMとともに売り出した「エリートS」（2000円）が爆発的にヒットし、新学期セールでは生産が追いつかないほどだった。キャップはアルミで、ペンには大型18金ペンを採用、形は携帯に便利なショートタイプだった。

たばこと塩の博物館提供

◀**新しいフィルター式タバコの登場**　国産では初のチャコールフィルター式タバコ「セブンスター」が日本専売公社（現・日本たばこ産業）から1箱（20本入り）100円で発売された。独特の製法でブレンドされた葉の香りや味を生かす目的で、フィルターにチャコール（活性炭）を混入したが、煙に含まれる刺激性成分の吹いこみをおさえるというメリットも得られた。

人物クローズアップ

高倉　健（三八）

「昭和残侠伝」「網走番外地」など深夜映画館に唐獅子牡丹の旋風

昭和四四年、土曜日の夜になると、客席四七〇の池袋の文芸坐には五〇〇〜六〇〇人の若者や学生たちが殺到した。土曜日はオールナイトで「昭和残侠伝」「網走番外地」「緋牡丹博徒」などが上映されていたからだ。

主演の〝健さん〟が登場すると、劇場内はどよめき、池部良（「昭和残侠伝」）が「ご一緒します」と健さんと肩を並べると「異議なし！」、警官や敵役が登場すれば「帰れッ、帰れッ」の手拍子で劇場内が騒然とした。人としての正義を貫こうとする健さんに、敵対するヤクザは執拗な攻撃をかけてくる。耐えに耐えるが、ついに怒りが爆発。唐桟の着物を片肌脱げば、背中の唐獅子牡丹が血に染まる。健さんは凶暴なほどの迫力を持って斬りこんでいく。学生たちは健さんの怒りに共鳴した。権力に対して死を賭して反抗する、青白い炎のようなものが見えたのだ。時代はちょうど大学紛争の真っただ中。学生たちは健さんの後ろ姿にみずからの姿を重ね合わせていたのである。

高倉健（三八）、本名・小田剛一は昭和六年二月一六日、福岡県中間町に生まれ、故郷の東筑中学の時には、「行きたかのう」と親友と二人でアメリカ密航をくわだてたりと腕白な少年だった。明治大学商学部を卒業し、ひょんな出逢いから昭和三〇年東映に入社。初めてのカメラテストの時、顔にドーランを塗ってカメラの前に立った。「そんな自分が情けなくて、涙が出ましたよ」と嘆いている（「アサヒグラフ」平成六年六月三日号）。

昭和三一年、東映での彼の初仕事は「電光空手打ち」だった。三年後、人気絶頂の歌手・江利チエミ（当時二二）と結婚（四六年に離婚）。三八年、鶴田浩二主演の「人生劇場・飛車角」が、興行的にも成功し、後の東映路線をも決定した。翌三九年には高倉健主演の「日本侠客伝」、四〇年には「網走番外地」「昭和残侠伝」が誕生し、これら三本はシリーズとして定着する。

ちなみに四四年には高倉健主演の映画は一二本あり、ほとんどが侠客を主人公にした映画。観客動員数も二〇〇万人を超えた映画が何本もあり、健さんはまさにドル箱スターだった。任侠映画は約一〇年でその時代を終えるが、健さん自身はその後「君よ憤怒の河を渉れ」（五一年）、「八甲田山」「幸福の黄色いハンカチ」（五二年）、と名作が続き、日本映画を代表するスターへと成長していった。

高倉健の肖像画を描いた人気イラストレーター、福山小夜さんは、「現実なんだけれども、現実を超えた形、夢のような美しさを与えてくれる人だ」とその魅力を分析する。

高倉健は寡黙で多くを語らない。しかし『あなたに褒められたくて』（平成三年）という随筆の中で、次のように言っている。「お母さん。僕はあなたに褒められたくて、ただ、それだけで、（中略）三十数年駆け続けてこられました」

総天然色

昭和残侠伝

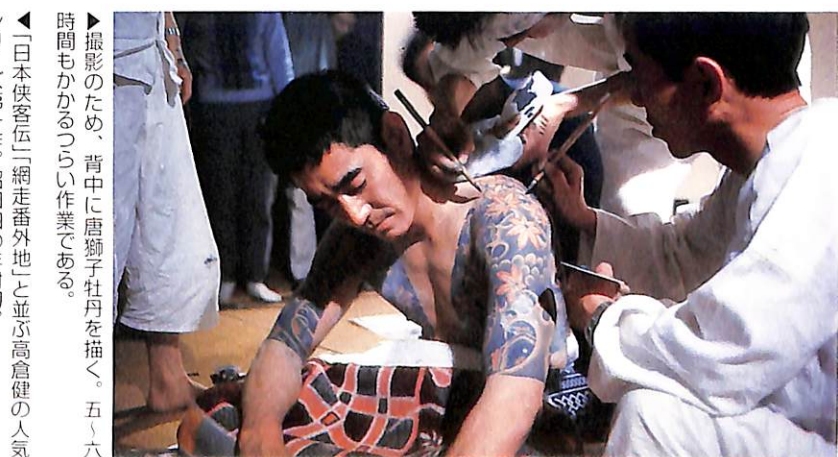
東映

監督・佐伯清

昨日は血桜、今日は緋牡丹！
真っ赤に咲いた男でもたまにゃ泣きてえ、思いきり！

高倉　健

松方弘樹　江原真二郎　中田博久　梅宮辰夫　三田佳子　水島道太郎　菅原謙二　三遊亭円生　池部　良

◀「日本侠客伝」「網走番外地」と並ぶ高倉健の人気シリーズ第一作。昭和四〇年封切。

▶撮影のため、背中に唐獅子牡丹を描く。五〜六時間もかかるつらい作業である。

石黒健治

▶一九六〇年代なかばからの東映任侠路線で、またフリーになってからの「八甲田山」「幸福の黄色いハンカチ」などで、高倉健はストイックなヒーローを演じ、無類の存在感を示した。写真は昭和四三年撮影。

石黒健治

決定的瞬間

テト攻勢から一年後の再会！ 掘り出された遺骸を前に 号泣するベトナム女性の悲劇

この年七月一九日号の「ライフ」に一枚の写真が掲載され、世界中の人々の注目をあびた。

白っぽい砂地の上に足を広げ、ノン（笠）を片手に座る若い女性が、号泣している。彼女の前には、緑色のビニールシートに包まれた奇妙に小さな遺骸がある。シートは何ヵ所か細い紐で縛られていて、五体が満足にそろっていないことがわかる。死体は前年一九六八年一月のテト（旧正月）攻勢で犠牲になったベトナム中部の古都フエ市の住民で、解放戦線側に虐殺され穴に埋められていたものだ。戦況が落ちついた一年後、南ベトナム政府軍により掘り出されて、市民にわかるように並べられた。

戦争という極限の中での、静かな、それでいて深い悲しみが、強い日差しとともに表現されている。

この写真を撮ったのは、「ライフ」誌に所属するラリー・バローズ（四三）だった。彼は古参のカメラマンとしてベトナム戦争に従軍。本誌六月三日号（一九六六年号）の「決定的瞬間」にも収録した、泥の中に横たわる傷ついたアメリカ軍兵士の写真など、印象深い作品を発表し続けていた。

ベトナム戦争にフリー・カメラマンとして参加していた石川文洋氏は、現地で三度バローズと会っている。

「彼は、『ライフ』の社員で、技術的にも優れているという、まさに大御所。しかも心のやさしい、物静かな人でした。一九六九年の五月、サイゴン（現・ホーチミン）のショロンで会った時、若い私が自分の写真を売りこむと、『いい作品が撮れたら連絡してくれ』と言ってくれました」

一九六八年一月三〇日の旧正月に入った未明、北ベトナム正規軍と南ベトナム民族解放戦線側の決死隊が、南ベトナムの七都市に侵入し、南ベトナム政府軍・アメリカ軍などとの間で激しい攻防戦を演じた。特にフエ市では戦闘が約一ヵ月続き、町の八割が破壊されるという激しさだった。攻勢を仕掛けた解放戦線側に多くの死者を出し、むしろ解放戦線側に犠牲の大きい戦いとなった。

しかし、一方ではアメリカに与えた精神的なショックも大きく、戦局全体としては大きな節目となった。同年三月、ジョンソン大統領は北爆の一方的停止、みずからの引退を宣言するなど、ベトナム戦争についての全面的な介入をあきらめ、次期大統領のニクソンにアメリカの苦悩を引き継いだのだ。ジョンソンに代わって登場したニクソン大統領はアメリカ軍の撤退を国民に約束し、一九六九年七月八日にはその第一陣がサイゴンの港を出港する。ベトナム戦争はベトナム人同士で戦えということだった。

この写真は、アメリカ軍は去るが「ベトナムの悲劇はまだ続いている」とのメッセージでもあるかのようだ。

▲この写真を撮影したラリー・バローズは、1971年2月10日、取材のために乗っていたヘリコプターがラオス上空で撃墜されて死亡する。45歳だった。 ラリー・バローズ(LIFE)/PPS

美の出会い

別荘地造成案に代わって日本初の野外彫刻美術館箱根二ノ平にオープン

昭和四四年八月一日、神奈川県箱根町二ノ平に日本初の野外彫刻美術館「箱根彫刻の森美術館」がオープンした。一万坪（約三万三〇〇〇平方メートル）もの敷地に彫刻が立ち並ぶという大規模な野外美術館は、世界にも類を見ない規模である。

フジ・サンケイグループの総帥で、後に初代美術館長となる鹿内信隆（五七）が、いつ頃からこの美術館の構想を抱くようになったか不明であるが、昭和三五年頃、彼はアントワープのミデルハイム公園やミラノの彫刻公園を訪れたり、現代彫刻の巨匠ヘンリー・ムーアを訪問していることなどから、おそらくその頃からであろう。

当時、多くの企業は日本各地で不動産の取得競争に走り、フジ・サンケイグループも箱根に用地を所有していた。社内では高級な分譲別荘地を造成する案が有力だったが、鹿内は何か文化的な事業で、大衆に還元できるようなものにしたいと考えていた。

鹿内の具体的な構想は、昭和四三年一月四日の日本経済新聞の随筆欄に寄稿の形で発表された。

「私がいま考えているのは箱根二ノ平にある一万坪の土地に彫刻の森を作ろうということである。（中略）細目は検討中だが、現代彫刻を中心に集めてゆくつもりだ。そして権威ある彫刻展をひらいたり、外国作家やその作品を招待したい。彫刻家ならば、自分の作品をぜひここに置きたくなるような彫刻美術館にしたい」

全体の設計は、鹿内が造形センスを買っていた彫刻家・井上武吉に依頼。キジが巣を作るような深い谷の急斜面に、彫刻を設置できるような平地を造成する大工事となった。

美術館の計画にあたってコンサルタント会社に依頼した調査結果によると、一日の入場者予測は五〇人から一〇〇人。

「経営的にはとても成り立つものではなく、暗におやめなさいと言っているようなものでした。鹿内に自信があったかどうかわかりませんが、そんな数字で終わるわけがないと彼は考えていたのでしょう」と美術館の事務局次長・宮本邦彦氏は語る。

オープニングには、企画展として「第一回現代国際彫刻展」が開催された。原弘がデザインしたポスターには、緑の森をバックに白抜き文字で「世界で初めての野外彫刻美術館　彫刻の森美術館」と入っている。

ところで気になる入場者数だが、オープンの年で約一〇万人。一九八〇年代には年間一五〇万人にも達し、バブル崩壊後も一〇〇万人は入っているそうだ。

「この美術館が成功した理由としては、集められた彫刻のレベルの高さはもちろんですが、四季に応じて変化する山や温泉、遠く相模湾を望むことのできる自然景観の美しさにもよるところが大きいのではないでしょうか」と美術部長・劔持邦弘氏は分析する。

箱根彫刻の森美術館には、その後もロダンやヘンリー・ムーア、ブランクーシ、マイヨールなど海外の代表的な彫刻家の作品が次々に集められていった。

「作品に手を触れないでください」と注意される美術館とは異なり、この美術館では、恋人たちがヘンリー・ムーアの彫刻によりかかって写真を撮ったり、子どもたちがピーター・ピアスの作品「しゃぼん玉のお城」の中にもぐりこんで遊んだりしている。ここの魅力はたんに彫刻を鑑賞するだけでなく、広大な景色の中でのびのびと遊べる点にあるのだろう。

国内・海外の彫刻家は、ここに作品を置きたいと希望し、ここで開かれるコンクールは若い彫刻家に刺激を与えるとともに、いろいろな支援を行っている。

鹿内の構想はみごとに開花した。

▲箱根の美しい風景の中で、彫刻は輝きを放っている。ここにはヘンリー・ムーアや流政之の作品が見える。写真右方の建物はピカソ館（昭和59年開設）。ピカソの陶芸作品などが展示されている。　箱根彫刻の森美術館提供（3点とも）

▲アリスティド・マイヨール（仏）作「とらわれのアクション」1906年、ブロンズ。

▲ヘンリー・ムーア（英）作「ファミリー・グループ」1948～49年、ブロンズ。

「現場」を歩く

新宿

西口地下広場を奪われた〝反戦フォーク〟とホームレス

山本徹美

昭和四四年六月二八日夜、警視庁は、新宿駅西口地下広場で「反戦フォークソング集会」を開いていた約七〇〇〇人に対し、機動隊を出動させ、催涙ガス弾を放つなど排除にあたった。その際、公務執行妨害などの容疑で六四人が逮捕された。新聞などではこれを「新宿西口地下広場事件」と呼んだ。

◀昭和44年5月24日、新宿駅西口地下広場のフォークソング集会、この日は約3000人が参集。

時事通信社

▲広場の一画は段ボールなどで作られたホームレスの人たちの〝住居〟になっている。

当時も今も、新宿駅西口はおびただしい数の人であふれているが、その頃は土曜日ごとに若者が集まり、「友よ」や「機動隊ブルース」などのフォークソングを合唱したり、討論を交わすなどしていた。彼らから「新宿西口のマドンナ」と呼ばれていた大木晴子さん（当時二〇歳）が、二八年前を振り返る。

「集会はその年の二月下旬、ベ平連の仲間たち一〇人くらいで始めたんです。ギターの伴奏で私が歌って、戦争反対を訴えたところ、行き交う人たちが興味を持ってくれ、輪が広がりました」

「ベ平連」（ベトナムに平和を！市民連合）は非暴力で反戦を訴える市民運動をめざしていた。フォークソングの会は毎週土曜、午後六時から開始した。回を重ねるごとに参加者はふえてゆく。その頃受験生で、四月には大学生となる山本コウタロー氏（現・音楽プロデューサー）も、聴衆の一人だった。

「広場には若者だけではなく、老人や自営業のおっちゃん、OLなど、世代、性別、職種を越えていろんな人がたくさん集まっていた。その絆となったのがフォークソングでした。そこでぼくは音楽の持つ力というものを認識させられた。だけど、ゲバ棒を振りかざしてセクトで闘っていた連中は、ぼくらを軟派と見ていたようです」

集会に来る人々は、誰もヘルメットや角材で「武装」などしていなかった。それが、春頃から変化する。

「集会の規模が巨大化してから、会の性格が変わったように思います。セクトの人の姿を見かけるようになり、警察側は警戒色を強めました」（大木さん）

広場がいきなり通路に

集会の自由は憲法で保障されている。そこで警察が持ち出したのはなんと道路交通法だった。五月一四日、西口の柱に「通路であるため、演奏やビラ配りなど通行の妨げになる行為を禁止する」と、張り紙で告知。随所に表示してあった西口地下広場の「地下広場」部分にはガムテープを貼って、消した。

「それまで広場だったのが、いきなり通路になるなんて……。権力の横暴さを目の当たりにする思いでした」

大木さんたちは警察の通告を無視、集会を重ねていたが、ついに機動隊の前に強制的に立ち退かされたのである。

「私たちは広場を奪われた。それだけにホームレスの人たちには頑張ってほしい」

と、大木さんは今や西口の「名物」と化したホームレスにエールを送るのである。

「Oh! モウレツ」のCMが流れる中で日本のGNP、50兆円の大台突破！「世界第2位」でやって来た〝豊かな時代〟

▲昭和47年頃のテレビ組み立て工場。企業の積極的な設備投資により、効率のよい、明るく清潔な工場が、全国に次々と登場した。　松下電器産業提供

昭和四四年六月、日本のGNP（国民総生産）が自由世界第二位となった、と発表された。働き続けて「焼け跡、闇市」「タケノコ生活」などという言葉から脱け出した世代にとって、まさに〝言うに言われぬ感慨〟だった。日本経済は毎年二〇%近い高成長が頂点を迎えていた。

「イザナギ景気」のおかげで年収も毎年一五%ずつ増加

日本中が高度成長の恩恵を満喫していた。サラリーマンの平均年収の伸びを見ても、前年の昭和四三年の約六三万円が、この年には七一万円へ、さらに翌四五年には八三万円へという具合だった。給料が毎年平均一五%ずつもふえ続けていたのである。

経済企画庁はこの年の六月一〇日、昭和四三年の日本のGNP（国民総生産）が、前の年に比べ約一九%ふえ、五一兆九二〇〇億円と初めて五〇兆円の大台を突破したと発表した。ついに西ドイツを抜きアメリカに次いで西側諸国での第二位を記録した。日本は自他ともに認める「経済大国」になったのである。

企業規模の拡大も急だった。この年発表されたアメリカの経済誌「フォーチュン」（八月五日号）恒例の「世界の大企業二

▶「Oh！モウレツ」。丸善石油のキャンペーンのポスター。

▲サラリーマンは、まず仕事第一、「モウレツ社員」であることが要求された。軍隊式の朝礼を行う会社も少なくなかった。 毎日新聞社

○○社番付」（アメリカ企業をのぞく）で、日立が一〇位についにトップテン入りをはたし、二〇〇社のうち実に四五社が日本企業という躍進ぶりを見せたのである。

こうした中で、国民のニーズも地殻変動を起こしつつあった。

チャールズ・ブロンソンら外国人タレントがCMに

こうした経済界の躍進に敏感に反応したのがテレビCMだった。この頃から一五秒という短時間のスポット広告が流行し始める。広告出稿量が急増したための苦肉の策だったが、短時間でインパクトのあるものを、ということから、後に映画監督として「異人たちとの夏」などを撮った大林宣彦ら若手実力派を起用し、巨額の制作費を投入した作品が続々とお目見えする。そして、時代風潮を象徴するように、昭和四三年には「大きいことはいいことだ」（森永エールチョコレート）が一世を風靡した。続くこの年は、高度成長を支えた企業戦士にエールを送るかのような「Oh! モウレツ」（丸善石油、現・コスモ石油）が大ヒットする。モデルだった小川ローザ（二三）のフレアーミニがめくれ上がるセクシーCMだ。徹頭徹尾、〝前向き〟の時代だったのだ。四三年頃からは、大物俳優の起用も目立つようになった。三船敏郎、高峰秀子、石原裕次郎、渥美清、森繁久弥らが一斉に製薬会社のCMに登場している。好調な企業収益をバックに、カネに糸目をつけない時代が始まっていた。

四四年の広告費は経済成長率にほぼ比例して約二〇㌫の伸びで、六三二八億円に達していた。そして外国のトップスターも続々上陸し始める。トップバッターがチャールズ・ブロンソンだった。彼を起用したマンダム（男性化粧品）シリーズは爆発的な売れ行きを示し、社名も「丹頂」から「マンダム」に変更したほど。それに続き、堰を切ったように大物「外国人タレント」が登場する。オードリー・ヘプバーン（日本エクスラン）、カトリーヌ・ドヌーブ（カネボウ）、アラン・ドロン（ダーバン）などである。

主要国の国民総生産（GNP）の推移

アメリカ
日本
西ドイツ
フランス
イギリス
カナダ

40,000
30,000
20,000
10,000
0
1950年 '55 '60 '65 '70 '75 '80 '85

単位 億ドル ※フランスの1985年は国内総生産（GDP）

▼初の超高層ビル、「霞が関ビル」は昭和43年に完成した。 読売新聞社

一〇月に発売された日本初の豪華なスポーツカー「フェアレディZ」（日産）は、お洒落でファッション感覚を備えた自動車の時代の幕開けを告げた。大衆車サニーが四一万五〇〇〇円（二ドアセダン、東京店頭渡し）だったのに対し、フェアレディZは八六万円（同）と二倍以上の価格にもかかわらず、好調な売れ行きを示したのである。

戦後のベビーブーム世代が成人し、特に膨大な女性ユーザーが登場したことも、マーケットの地殻変動を決定的にした。その牽引車のひとつが、昭和四一年から始まった前田美波里（当時一八歳）が水着姿で登場する夏用化粧品のCMである。若い女性の多くが〝ハーフでスタイル抜群の彼女のようになりたい〟と化粧品を買い求め、ブームはCMとは直接関係のない水着にまでおよんだ。

さらにこの年、東京・池袋に〝都会の働く女性をテーマにした〟パルコがオープン。百貨店スタイルでなく、女性の食指を刺激する〝欲求品〟にしぼりこんだ商品構成で、若い女性の人気を集めた。また、主婦の水泳教室が趣味と実益を兼ねた娯楽として活況を呈し、ママさんバレー初の親善大会が開催されたのもこの頃。まさに、女性が豊かさを享受する時代が到来していた。

当時の日本社会は、どこを見ても自信と活気と夢にあふれていた。

このように華やかに世界の表舞台に再登場した日本だったが、世界的に景気が後退する中、〝日本がすさまじい輸出攻勢をかけるのでは〟という警戒心が欧米諸国に生まれ、後の貿易摩擦の第一歩を踏み出すことになる。

▲捨てられた電気洗濯機。高機能で使い勝手のよい新型が続々登場し、大量の「粗大ごみ」を生み出した。 毎日新聞社

▲横綱柏戸、引退（7月9日）体力の限界を理由に大相撲名古屋場所4日目に発表。昭和29年初土俵。36年秋、大鵬とともに第47代横綱に昇進した。柔の大鵬、剛の柏戸と言われ柏鵬時代を築いた。優勝5回。年寄鏡山を襲名。

共同通信社

▶英チャールズ王子が華やかに立太子式（7月1日）エリザベス女王から冠を受け、プリンス・オブ・ウェールズ（英国皇太子の称号）になった。皇太子は20歳、これでチャールズ3世として王位につくことが約束される。

WWP

▶名神高速に清涼飲料水の空き瓶散乱（7月3日）午前10時半頃、吹田市山田下の上り線で4トントラックが横転、積み荷が崩れて路上を広くおおった。一時は路肩の1車線しか使えず、2キロ近い渋滞が続いた。

朝日新聞社

WWP

▲◀米上院議員エドワード・ケネディ、同乗女性を死なす（7月18日）マサチューセッツ州で川に車ごと転落、自分は脱出した。写真はギプス姿で葬儀に出席する議員と引き上げられた車。この事故で大統領選出馬を断念した。

WWP

▶ベトナムで米軍の撤退始まる（7月8日）国内の反戦運動の高まりとふえ続ける犠牲に、6月8日、ついにニクソン大統領が決意。写真は第一陣2万5000人の中に選ばれて喜ぶ非武装地帯の南、ラオス国境近くの基地の部隊。

朝日新聞社

昭和44年7月

1（火）●東京地裁、女性三〇歳定年制は無効と判示。
2（水）●東京都公害防止条例公布。
●京都で行われた日本胸部疾患学会で、脳死・心臓死など死の判定をめぐり激論。
3（木）●桂三枝司会「ヤングおー！おー！」放映開始。
4（金）●閣議、生活水準の分析が不適当と『国民生活白書』を承認せず（8日、修正して了承）。
5（土）●休職教師の二八・四％がノイローゼと判明。
6（日）●成田空港反対派の三里塚平和塔が完成。
7（月）●九大教授・井上正治、学長代行任命を文部省が拒否した件に関し、文相の謝罪求め提訴。
8（火）●米軍、南ベトナムからの撤退を開始。
9（水）●横綱柏戸、引退。柏鵬時代が終わる。
10（木）●工業技術院、超伝導を利用したMHD（電磁流体）発電の実験に世界で初めて成功。
11（金）●米ナビスコ社、日本進出へ合弁会社設立決定。
12（土）●第一八回技能五輪で日本はメダル獲得一位。
13（日）●都議選で自民第一党、社会は第三党に転落。
14（月）●エルサルバドルとホンジュラス、サッカーの勝敗をめぐって国交断絶し、戦闘状態に突入。
15（火）●KDD、国際間データ通信業務を開始と発表。
16（水）●東京地裁、六一歳以上の家事労働は経済的に評価できないと判示。
17（木）●日本育英会、紛争のため留年した二〇大学の一万六六〇〇人に、奨学金停止の方針決定。
18（金）●米紙、沖縄の米軍基地で毒ガス事故と報道。
19（土）●警視庁、フォーク集会を禁止するため新宿駅西口広場を「通路」と規定。
20（日）●「アポロ11号」、人類史上初めて月面に着陸。
21（月）●経済同友会、地価抑制に私有権制限を提言。
22（火）●文部省、初の肥満児全国調査結果を発表。部課長の子に多く農漁村では少ない、など。
23（水）●社会党、三井東圧の枯れ葉剤原料製造を追及。
24（木）●全国九六大学長、大学立法反対の声明発表。
25（金）●包装食品への添加物表示などが義務化される。
26（土）●杉並区のごみ焼却場建設反対派、測量を阻止。
27（日）●野放しの家畜用抗性物質。厚生省が食品への残留など影響調査へ、と新聞に。
28（月）●IMF、第三の通貨SDR創設を正式決定。
29（火）●早川電機、新型半導体、ガリウム砒素負性抵抗発光素子を開発。光通信への応用などに期待。
30（水）●急減する蒸気機関車、盛期には五〇〇〇両以上あったが、現在は二二六六両、と新聞に。
31（木）●日米宇宙開発技術協力交渉、妥結。

朝日新聞社

▲無念の太田幸司投手ら三沢高ナイン、帰郷（8月21日）夏の高校野球決勝戦で松山商と対決、4時間16分の熱闘も延長18回0対0で引き分け、翌日の再試合で優勝を逸した。太田は4日連続45イニングを投げ抜いた。

▶女優シャロン・テートら惨殺（8月9日）ビバリーヒルズにある映画監督ポランスキー（右）邸で妻のテート（左）ら男女5人の惨殺体発見。壁に「PIG」の血文字があった。ヒッピーのマンソンら4人の犯行だった。

WWP

朝日新聞社

▼交通事故死、早くも1万人目（8月28日）1万人突破が最短だった昭和41年より28日も早く、最悪の結果。写真はその現場で、御殿場市で大型トラックが老人の乗った自転車をはねた。

証言・あの日この日

高橋和巳（37）

3月2日（日）〈早朝、報道関係者だと自称する人物から奇妙な電話があったのを私は覚えている。内容をその言葉のはしばしまでは正確には記憶していないが、要するに、入試阻止運動の山場となる場所と日時を教えてくれということだった。そんなことを私が知っているはずはない〉（高橋和巳『わが解体』）

東大の入試が中止されたこの年、同様に危ぶまれていた京大の入試は翌3日から校外14ヵ所に分散された受験場で行われ、全共闘を支持していた文学部助教授・高橋和巳も市内某銀行の階上を借りての採点に駆り出される。その直後、彼が鎌倉の自宅に戻っている間に開かれた団交で、学部側は学生たちへの公約をひるがえし、学生は学部全館封鎖に突入。高橋も、濁官より流す害毒がはなはだしい清官教授であると批判される。（坪内祐三）

▼ニューヨーク郊外ウッドストックで史上最大のロックコンサート（8月15日）愛と平和を合い言葉に集まった若者たちは40万人。3日間の祭典に全員が酔った。

▶原爆記念日の広島に反戦の叫び（8月6日）夜の平和公園でベ平連がフォーク集会（写真）。広島大では全共闘が決起大会。「祈りより反戦」の声は強かった。

TIME LIFE／PPS

読売新聞社

昭和44年8月

1（金）●神奈川県箱根町に彫刻の森美術館が開館。
●本田技研、「ホンダドリームCB750」発売。
2（土）●西宮市で使用中のヘアドライヤーが発火。この頃、家電製品の同種事故が相次ぐ。
3（日）●参院本会議、大学の運営に関する臨時措置法（大学立法）を実質審議抜きで強行可決。
4（月）●TBS、東野英治郎主演「水戸黄門」放映開始。
5（火）●パリのサンローラン・ショー、ニューファッションはミニからマキシへ、と新聞に。
6（水）●広島の中国放送、米軍返還の原爆映像を「幻のフィルムは語る」と題して放映。
7（木）●一二日にかけて、東北・北陸中心に豪雨。死者・行方不明者四一人、耕地の被害も大。
8（金）●東京・銀座のデパート、通行人に富士山の空気の缶詰七〇〇個を配る。
9（土）●米で女優シャロン・テートら五人惨殺される。
10（日）●庄司薫『赤頭巾ちゃん気をつけて』刊行。
11（月）●シンナー遊び流行。本年すでに死者一〇〇人。
12（火）●北アイルランドで、カトリック系住民と警官隊・プロテスタント系住民が市街戦展開。
13（水）●農林省、新潟県を中心とする一二日までの集中豪雨で農林被害約一一九億円と発表。
14（木）●千葉県全域の海水浴場で大量のクラゲ発生。
15（金）●米でウッドストック・フェスティバル開幕。
●日本の登山家六人、アイガー北壁直登に成功。
16（土）●通産省、反対の世論が強く騒ぎも予測された西宮市での都道府県選抜競輪中止を通告。
17（日）●広島大に機動隊導入され、封鎖解除始まる。
18（月）●夏の甲子園、決勝の三沢高対松山商は延長一八回引き分け（翌日再試合で松山商優勝）。
19（火）●総務庁長官、視察中に漁船追尾のソ連船目撃。
20（水）●農林省、二〇万㌶規模の本格的減反検討開始。
21（木）●小学校の女性教諭が半数超えると文部省発表。
22（金）●「週刊ポスト」（小学館）創刊。
23（土）●茨城県猿島町で竜巻発生。二一〇棟が全半壊。
24（日）●警察庁、台風九号被害を集計。二〇六人死傷。
25（月）●油症事件でカネミ倉庫社長ら三人を書類送検。
26（火）●長野県松本営林署、この日までに悪質な高山植物荒らし二万一五〇〇人を摘発。
27（水）●「男はつらいよ」シリーズ第一作、封切。
28（木）●日大紛争発端の二〇億円脱税事件が不起訴に。
29（金）●三〇回優勝の大鵬、一代年寄の名跡受ける。
30（土）●沖縄コザ市で黒人兵と米軍MPが「市街戦」。
31（日）●文相、内紛の東教大に臨時措置法適用を示唆。

朝日新聞社

VNA／共同通信社

▲ホー・チ・ミン北ベトナム大統領死去(9月3日)民族解放に大きな足跡を残した巨星の死だった。79歳。写真は国会に安置された遺体。9日、南北統一を呼びかける遺言が発表された。

▲封鎖中の京大周辺で「市街戦」(9月20日)机などで今出川通にバリケードを築いた学生と機動隊が衝突、誤って火炎瓶の火をあびた学生も(写真)。大学側は機動隊導入で22日封鎖を解除した。

朝日新聞社

▶マーガレット王女、皇太子ご夫妻と歓談(9月28日)東京で26日から開催された英国フェアに出席するため、夫君のスノードン卿とともに来日。この日は東宮御所を訪問、ともに散策を楽しんだ。

読売新聞社

▲東大全共闘代表の山本義隆逮捕(9月5日)東京の日比谷公園で開かれた全国全共闘連合結成大会の会場に入ろうとして連行された。東大安田講堂事件で、凶器準備集合罪などの容疑で追われてから228日目だった。

▲全国全共闘連合結成大会(9月5日)東京の日比谷公園に46大学の全共闘と、革マル派をのぞく反日共系8派の学生約1万人が集結、議長に東大全共闘代表の山本義隆が就任した。

CORBIS-BETTMANN／PPS

▼カダフィ、リビアの全権掌握(9月1日)軍事クーデターで王制を打倒し、革命評議会議長に就任。写真は1971年のアラブ連邦結成時で、中央がカダフィ。左はエジプトのサダト大統領。

昭和44年9月

1(月)●リビアでクーデター、カダフィが全権掌握。
2(火)●都衛生局、うさぎの肉が混入された豚ひき肉販売発覚で、食肉店七〇〇〇軒を一斉調査。
3(水)●北ベトナムのホー・チ・ミン大統領、死去。
4(木)●愛知揆一外相が訪ソし、コスイギン首相と会談。北方領土問題で意見対立。
5(金)●全国全共闘連合結成大会。四六大学が参加。
6(土)●主婦連・地婦連、競輪収益金の受け取りに抗議して消費者協会理事を辞任。
7(日)●相模原市民会館が「コント55号！ 裏番組をブッ飛ばせ!!」録画に会場使用拒否と新聞に。
8(月)●名古屋の松蔭高校で、生徒が試験を苦に放火。
9(火)●住宅公団、建設計画発表。高層化で家賃高騰。
10(水)●渋谷区の小学一年生誘拐(11日遺体で発見)。
●司葉子、大蔵省の相沢英之と結婚。
11(木)●食品衛生調査会、石油蛋白の安全性を検討するため特別部会を設置と決定。
12(金)●鹿児島県喜入町に日本初の石油輸入基地完成。
13(土)●警視庁など、全国全共闘連合結成大会に初登場した赤軍派の拠点大学など五ヵ所を捜索。
14(日)●平賀札幌地裁所長、長沼ナイキ訴訟に干渉する書簡を担当裁判長に送った事実を認める。
15(月)●屈斜路湖で観光用の熊が五歳男児を噛み殺す。
16(火)●米大統領、ベトナム第二次撤兵計画を発表。
17(水)●徳島知事選で、初のテレビ政見放送。
18(木)●永野重雄、日商会頭に就任。
19(金)●主婦連、ジュースの品質検査結果を発表。果汁一〇〇%は一〇〇種中三種のみ。
20(土)●イギリスのマーガレット王女来日。
21(日)●京大に機動隊導入(22日、封鎖の学生排除)。
22(月)●世界重量挙げ選手権フェザー級で三宅義行優勝。兄・義信と合わせ日本が六回連続優勝。
23(火)●お経のレコードが静かなブーム、と新聞に。
24(水)●デボノ『水平思考の世界』(講談社)刊行。
25(木)●警視庁、この日までに新宿のデートクラブ経営者ら五七人を詐欺などの容疑で逮捕。
26(金)●電電公社は、電話番号の変更などを自動的に案内するサービスを秋から開始、と新聞に。
27(土)●反共産党六派が高校生安保粉砕共闘会議結成。
28(日)●北海道真狩村で日本初の熱気球飛行が成功。
●テレビのクイズ番組ギャンブル化進む。賞金や賞品の高額化に公取委は規制検討と新聞に。
29(月)●北陸本線全線の複線化・電化完成。
30(火)●日本航空、シドニー線開設。初の南半球行き。

朝日新聞社

▲日本シリーズ初の退場(10月30日)後楽園球場で行われた巨人―阪急戦の第4戦、巨人・土井の本盗が成功。これを不服とした阪急・岡村捕手が審判を突き飛ばし退場となった。写真は退場を宣告する岡田主審。

▼シラス漁に「ビニール公害」(10月)静岡市用宗漁港では、捨てられた家庭のポリ袋やハウス栽培のビニールが海底にたまり、漁網にからまる被害が続出している。年間2億円を誇ったシラスの漁獲高が4割も減ったという。

▼千葉県松戸市役所に「すぐやる課」(10月6日)役人の「不親切で遅い」のイメージ一掃がねらいで、課員二人が市民の苦情を迅速に処理。初日は苦情14件のうち半数を片づけた。写真は初代課長の臼井銀次郎氏。

朝日新聞社

読売新聞社

朝日新聞社

▲陸上自衛隊が「暴徒鎮圧」演習を初公開(10月3日)約400人が御殿場市の東富士演習場に集まり、ヘルメット姿の暴徒役隊員を催涙液放射器つき戦車で追うなど、迫力満点の治安行動訓練を行った。

◀サド著『悪徳の栄え』、有罪確定(10月15日)最高裁が「芸術性があっても猥褻」として翻訳者・澁澤龍彦(中央)と発行者の現代思潮社・石井恭二(左)の両被告に、猥褻文書販売・所持罪で罰金刑を言い渡した。

昭和44年10月

1(水)●コンコルド、試験飛行でマッハ一・〇五記録。
●藤純子主演「緋牡丹博徒・鉄火場列伝」封切。
2(木)●日米航空交渉妥結。日本はアンカレジ経由ニューヨーク線とグアム線を獲得。
3(金)●日本初の本格商用原子炉、日本原子力発電敦賀発電所で臨界に到達(45年度から営業運転)。
4(土)●ドリフターズ「8時だヨ！全員集合」放映開始。
5(日)●「アポロ11号」の「月の石」が羽田に到着。
●フジテレビ、アニメ「サザエさん」放映開始。
6(月)●松戸市役所に苦情処理の「すぐやる課」発足。
7(火)●「巨泉・前武ゲバゲバ90分！」放映開始。
8(水)●東京で国際放射線医学会議開催。日本の早期胃癌発見率や治癒率が各国の称賛あびる。
9(木)●ダスティン・ホフマン主演「真夜中のカーボーイ」封切。
10(金)●プロ野球の金田正一投手、四〇〇勝を達成。
11(土)●通産省、電力・石油業界で公害防止への投資が大幅増、設備投資の五・二五%占めると発表。
12(日)●成田社党委員長、浅沼刺殺九周年集会で「日米帝国主義はアジア人民共通の敵」と演説。
13(月)●国民の過半が社会活動に消極的と総理府調査。
14(火)●西武鉄道、特急「レッドアロー号」の運行開始。
15(水)●鹿島港開港。二〇万トン級が接岸できる人工港。
16(木)●日経連の桜田武代表理事、総会で、自主防衛のため憲法改正必要と発言。
17(金)●『運輸白書』発表。自動車が旅客輸送一位に。
18(土)●日産、「フェアレディZ」を発表。
19(日)●八戸沖で漁船と貨物船が衝突。七人死亡。
20(月)●東京・渋谷で粗大ごみの収集始まる。
21(火)●西独首相にブラント選出。東方政策推進。
22(水)●最高裁、総会屋使う発言封じは違法と判示。
23(木)●米グッドイヤー社、日本進出に本腰と新聞に。
24(金)●閣議、放送大学問題懇談会の設置を決定。
25(土)●世界柔道選手権で日本が全六階級を制覇。
26(日)●西独のマルク引き上げ受け円に圧力と新聞に。
27(月)●富士山五合目に公衆電話設置、通話開始。
28(火)●三菱重工、米クライスラー社との合弁会社設立大綱を承認。自動車部門独立へ。
29(水)●ソニーと松下電器、家庭用ビデオを発表。ソニーがベータ、松下がVHS。
●厚生省、人工甘味料チクロの使用を禁止。
30(木)●都のメッキ工場検査でシアン排出基準違反が七四七工場中三三〇工場に達する。
31(金)●「アポロ11号」の三飛行士に文化勲章と決定。

朝日新聞社

▼人工甘味料チクロ追放!(11月10日)清涼飲料、つくだ煮などに広く使われていたが、発癌性が指摘され、厚生省は使用禁止を決定、この日から省令が施行された。写真は前日、東京で開かれた全国消費者総決起大会。

読売新聞社

▲モウレツ社員研修(11月14日)サラリーマンの合宿訓練がさかんに行われ、専門の請負会社も登場した。「根性」と「やる気」が重視され、3泊4日の合宿で合わせて睡眠4時間の例もあった。写真はその一端。檄・罵声が飛び交う。

住友銀行提供

▲現金自動支払機登場(11月26日)住友銀行と立石電機が共同開発した国産第1号機。カードを入れ、暗証番号をダイヤルすると1回1万円まで引き出せる。12月1日から東京・新宿支店、大阪・梅田北口支店に設置。

読売新聞社

▶昭和47年の沖縄返還決定(11月21日)訪米中の佐藤首相とニクソン大統領との共同声明の中で発表。「核抜き・基地本土並み」問題は玉虫色の決着となった。

▼筑豊炭田のシンボル解体(11月11日)福岡県方城町の旧三菱方城炭鉱の大煙突(高さ43メートル)が、住民1000人の見守る中で倒され、明治35年以来の歴史に幕を閉じた。

毎日新聞社

▲「アポロ11号」が持ち帰った「月の石」(11月26日)東京・上野の国立科学博物館が特別展で公開。ゴルフボール大で、初めて月に立った米宇宙飛行士が「静かの海」で採取。

毎日新聞社

昭和44年11月

1(土)●大相撲で高見山が小結昇進。外国人初の三役。
●航空自衛官・小西誠、反戦ビラ掲示で逮捕。
2(日)●松鶴・米朝軸に、上方落語が復調、と新聞に。
3(月)●獅子文六・東山魁夷ら四人、文化勲章受章。
4(火)●西鉄、稲尾和久の監督就任を発表(5日南海・野村克也、14日阪神・村山実が新監督)。
5(水)●大菩薩峠で武闘訓練中の赤軍派五三人逮捕。
6(木)●フグ料理・越前ガニ・焼きハマグリなど、名物に輸入材料を使用するものが増加、と新聞に。
7(金)●閣議で米軍王子野戦病院の年内閉鎖を報告。
8(土)●公明党、沖縄の米軍基地調査の結果発表。九ヵ所に核兵器が存在と指摘。
9(日)●横浜生協、全国初の米の直接共同購入を開始。
10(月)●早川電機(現・シャープ)、八ケタ表示の電卓「マイクロコンペット」を発売と発表。
11(火)●東京・世田谷に玉川高島屋開店。日本初の大規模郊外型ショッピングセンター。
12(水)●都立新宿高、生徒の政治活動禁止せずと決定。
13(木)●沖縄で首相訪米に抗議する一〇万人集会。
14(金)●蜷川虎三京都府知事、前日の首相訪米抗議ストに参加した府職員を処分しないと発表。
15(土)●大学生の学費と生活費は年三〇万円と文部省。
16(日)●初のコンピュータ技術者国家認定試験実施。
17(月)●佐藤首相、訪米。抗議行動で四五四人逮捕。
18(火)●養護施設から全日制高進学は九・四%と判明。
19(水)●「アポロ12号」人類二度目の月着陸に成功。
20(木)●大阪・梅田地下街に「川の流れる地下街」完成。
●米で先住民八九人がアルカトラズ島を占拠。
21(金)●日米共同声明発表。沖縄を「核抜き・基地本土並み」で四七年に返還とする。
22(土)●武道館で日本で初のダンス世界選手権開催。
●沖縄の屋良朝苗知事、日米共同声明を受け、「形式的な基地本土並みは不満」と声明。
23(日)●東京・池袋駅ビルに池袋パルコが開店。
24(月)●米ソ、核拡散防止条約を批准。
25(火)●大阪市の水門工事で生埋め事故、一一人死亡。
26(水)●東京で「全国スモンの会」、結成大会開催。
●国立科学博物館で「月の石」が公開される。
27(木)●国鉄、運転事故による乗客の死亡ゼロがこの日で満五年の新記録と発表。
28(金)●プロ野球西鉄の永易将之投手、八百長に関係したとして球界初の永久追放処分に。
29(土)●草津線で岩が直撃し気動車転覆。二〇人死傷。
30(日)●一八歳で月給三万円めざす、と同盟が方針。

朝日新聞社

▲東武伊勢崎線で踏切事故(12月9日)館林市の高根踏切で、警報機無視の大型クレーン車と浅草行き準急電車が衝突。電車の通過待ちをしていた4台の車も巻き添えとなり、7人が死亡、101人が重軽傷を負った。

◀ベ平連、キャンドルデモ(12月24日)ビートルズのジョン・レノン、オノ・ヨーコ夫妻の呼びかけにこたえ、東京・日比谷の野外音楽堂で集会を開いた参加者3000人は、反戦を訴えロウソクを手に銀座通りを行進した。

時事通信社

朝日新聞社

▲豊橋市で大竜巻(12月7日)発達した二つの低気圧が中部地方をはさむ形で通過した後に発生、東海道新幹線、国道1号線を横断して約7キロ突っ走り、130戸が被災、車20台が横転・転覆し、死者一人、重軽傷者60人を出した。

▼青年団の喧嘩で3人死亡(12月5日)千葉県沼南町で酒盛り中の13人が、後で加わった隣町の若者4人と口論、木刀などで殴った。伝統の青年団もこの頃はまとめ役不在だった。写真は事件のあった星神社拝殿。

朝日新聞社

朝日新聞社

◀テレビ政見放送始まる(12月15日)「こたつの中で立会演説会が見られる」と、山間部や選挙区の広い北海道では好評だが、関東地方の視聴率調査では、平均6.4パーセントと予想外の低さだった。

昭和44年12月

1(月)●東京都、老人医療費無料化を実施。
●住友銀行、日本初の現金自動支払機を設置。
2(火)●米軍、一ヵ月以内に沖縄の毒ガス撤去と発表。
3(水)●文部省の審議会が職業高校にコンピュータ情報処理など九科目新設を文相に建議。
4(木)●東京都、多摩川の魚大量死の原因は家庭用洗剤のABS(界面活性剤)などと発表。
5(金)●ミュージカル「ヘアー」、東横劇場で初演。
6(土)●成田空港反対の一坪地主に社党議員と新聞に。
7(日)●フジテレビ、アニメ「アタックNo.1」放映開始。
●総額二兆四〇〇〇億円の史上最高のボーナス景気で、東京の三越本店は二五万人の人出。
8(月)●都庁に大気汚染コントロールセンター完成。
9(火)●競馬・競輪施設、売り上げ急上昇で、廃止論よそに増・改築がめじろ押し、と新聞に。
10(水)●日本BHC工業会、有機塩素系農薬のBHC・DDTの「国内向け」製造中止を決定。
11(木)●国鉄、新宿騒乱事件被告に損害賠償を提訴。
12(金)●東京・渋谷で劇団天井桟敷と状況劇場の団員が乱闘。寺山修司・唐十郎ら九人逮捕。
13(土)●共産党、創価学会・公明党が藤原弘達『創価学会を斬る』の出版を妨害とNHKで暴露。
14(日)●淡路島上空で全日空機と読売社機が接触事故。
15(月)●騒音に悩む大阪国際空港周辺の住民が夜間離着陸禁止と慰謝料の支払い求め提訴。
16(火)●学生横綱の輪島博、花籠部屋入りを表明。
17(水)●都地婦連と都消費者センター、自主流通米の四〇%に古米混入と発表。
18(木)●イギリスで死刑廃止が確定する。
19(金)●前年の企業交際費七七〇〇億円と国税庁発表。
20(土)●営団地下鉄千代田線北千住—大手町間が開業。
21(日)●競馬の有馬記念で六八億円余の売り上げ記録。
22(月)●磐田市の国道一号線に、日本初のドライブイン・シアターが完成し、試写会が行われる。
23(火)●初の衆院選政見放送の視聴率六・四%と判明。
24(水)●最高裁、デモ参加者に肖像権を認める。
25(木)●服部時計店、世界初のクオーツ腕時計を発売。
26(金)●東京・大丸デパートの女子便所と品川区のごみ集積所で赤ちゃんの遺棄死体が発見される。
27(土)●第三二回総選挙(自民二八八、社会は四四減)。
28(日)●総選挙投票率が初めて女性上位にと判明。
29(月)●大阪市の二医院で通院患者が医師二人を刺殺。
30(火)●甲府市中心街で連続一六件の放火事件発生。
31(水)●都立立川高、校舎封鎖で生徒四人退学と決定。

俄楽多市（がらくたいち）

流行語

ナンセンスCMのヒット作

◀「水戸黄門」が8月4日からTBS系で放映開始。出演は東野英治郎（中央）、杉良太郎（右）、横内正（左）ら。

TBS提供

「**はっぱふみふみ**」。パイロット万年筆のテレビCMで大橋巨泉が「みじかびの　きゃぷりてとれば　すぎちょびれ　すぎかきすらの　はっぱふみふみ」と詠んだ〝迷歌〟が大当たり。製品の製造は間に合わず、会社の株はCM放映後三カ月で、六一円から一二三円にはね上がる騒ぎとなった。この〝歌〟自体には何の意味もないが、意味のないばかばかしさがヒットの秘密と言われている。

「**アッと驚くタメゴロー**」。タレントのハナ肇の口癖で、彼がテレビ番組でふっと洩らしたことから流行した。

「**しこしこ**」。こつこつととか、細細と、といったことを表す若者用語。さえないことへの揶揄を含んでおり、現在でも使われている。

「**断絶**」。それまで断絶と言えば「お家断絶」という、時代劇調の使い方が一般的だった。しかしこの年、アメリカの経営学者、ドラッカーの『断絶の時代』がベストセラーになってからニュアンスが一変、世代間のズレを表す言葉として広まった。

ファッション

サン・ローランのシースルーが流行

サン・ローランが春・夏のパリ・コレクションに、ジョーゼットやオーガンジーなど、すけて見える布地を使ったり、服の一部に穴を開けて肌が直接見えるようにしたデザインを発表、これが「シースルー・ルック」と呼ばれて世界的に流行した。シースルーは布地を通して女性の体の美しさを強調しようとしたもので、日本では「スケスケ・ルック」と呼ばれたが、日本の場合、女性用だけでなく、男性用のスケスケ・ルックまで登場。男性が裸の体に極薄のワイシャツを着て肉体美を誇示しようとするもので、一部の若者の間で結構もてはやされた。
（『昭和世相流行語辞典』旺文社）

新宮殿

男性用トイレはクスノキ　女性用はモミジの板張り

皇居新宮殿が、この四月からいよいよ利用される。新宮殿で特に心が配られているのは、外国からの賓客用のトイレである。といってもこのトイレには「ジェントルメン」と「レディス」の区別も標識もない。幅三メートルほどの曲がりくねった廊下を行くと、ベージュ色の布壁が板壁に変わる。その角をヒョイと曲がると、その先はすでに扉なしのおトイレという次第。ただし壁も天井も床もすべて木目あざやかな板で造られており、男性用はクスノキ、女性用はモミジが使われている。いずれも日本全国から探し出した樹齢数百年の古木で、トイレの広さは一・五メートル四方である。言い忘れたが標識がなくては困るというご仁のために、広い廊下の入り口に宮内庁の職員が立っていて案内する仕組みである。

変わっているのは便器だ。普通の便器のように床に汚物の流れる管などは出ていない。壁から洋式の白い便器がニュッと突き出ているだけ。床にある直径七センチほどの金具を軽く踏むと、壁の中から水が流れる仕組みだ。
（「漫画読本」四月号）

▲「週刊マーガレット」で、この年3号から、わたなべまさこ「ガラスの城」が連載開始。

CM100年　タレント・芦田伸介

テレビCF
「クリープを入れないコーヒーなんて……——クリープ」（森永乳業）

データ

人手いらずで六〇万　旅館のゲーム機の稼ぎ

全国のホテルや旅館には、ゲーム機を主体とした娯楽室がある。箱根のある旅館では、二六台で六〇万円の利益があるという。その内訳はジュークボックス四万円×一台、フリッパー三万円×八台、クレーン四万円×三台、対人ゲーム三万五〇〇〇円×二台、子ども用乗り物二万円×四台などで、そのほか合わせて月の売り上げが七九万五〇〇〇円。この中から維持管理費を引くと純益は五九万六〇〇〇円となる。
（「レジャー産業」五月号）

三面記事

熟女モデルでは芸術はムリ

◀「ひみつのアッコちゃん」の主人公が持つ「魔法の鏡」のペンダントが中嶋製作所から発売された。価格280円。

中嶋製作所提供　©フジオプロ・東映動画

〔京都発〕京都市立芸術大学の学生が、大学との大衆団交の席で「若くてスタイルのよいモデルを用意しろ」と要求した。大学側によると現在、モデルは九人。平均年齢が三一・二歳で、内訳は一〇代一人、二〇代三人、三〇代一人、四〇代以上が四人。中には昭和二五年大学が発足した時からモデルを続けている人もおり、さらに美術専門学校時代からの経験者もいる。報酬は三時間で、ヌードが一二〇〇円、着衣が七五〇円と全国並みの料金が支払われている。

こうした中で、今年初めから、同大学の日本画科、洋画科、彫刻科の学生が「モデルをもっと若くしてくれ。年のいった人はスタイルが悪いので、いい作品ができない」と〝若返り〟を要望。大学側に自己批判（？）を求めているもの。大学側は「教材としてモデルさんの年齢はあまり関係ない」と学生側の申し入れをはねのけてきたが、日ごとに募る学生の不満に押され気味という。
（「夕刊京都」七月七日）

はやり歌

夜明けのスキャット

ルルルルル　ルルルルル
ルルルルル　ルルルル
ラララララ　ラララララ
ラララララ　ラララ
パパパパパパパ
パパパパパパパ
アアアアア　アアアアア
ルルルルル　ルルルルル
ルルルルル　ルルルルル

愛し合う　その時に
この世は　とまるの
時のない　世界に
二人は　行くのよ
夜はながれず　星も消えない
愛の唄　ひびくだけ
愛し合う　二人の
時計は　とまるのよ
時計は　とまるの

▲山上路夫作詞、いずみたく作曲の「夜明けのスキャット」を歌った由紀さおり。

港町ブルース

背のびして見る　海峡を
今日も汽笛が　遠ざかる
あなたにあげた　夜をかえして
港　港　函館　通り雨
流す涙で　割る酒は
だました男の　味がする
あなたの影を　ひきずりながら
港　宮古　釜石　気仙沼
呼んでとどかぬ　人の名を
こぼれた酒と　指で書く
海に涙の　ああ愚痴ばかり
港　別府　長崎　枕崎
女心の　残り火は
燃えて身をやく　桜島
ここは鹿児島　旅路の果てか
港　港町　ブルースよ

ビクターエンタテインメント提供

▲深津武志作詞、なかにし礼補作詞、猪俣公章作曲。森進一独特の節まわしでヒットした。

考現学

東京の夜の顔　赤坂のもうひとつの姿

東京・赤坂は粋な黒塀の料亭が四八軒、「ミカド」「ゴールデン赤坂」などの高級キャバレーが七軒と新旧の遊びが集中し、今や銀座をしのぐ東京の夜の顔になってきつつある。

この街を別の面から見ると、裏の特徴が見えてくる。昨年の空き巣の被害は一一三六件で都内で断トツだった。二位の麻布署が六〇〇件だから約二倍になる。一人当たりの被害額も都内の平均が約四万五〇〇〇円に対して、この街では八万～一二万円。被害者の六〇％はホステスと芸者で、昨年の被害の最高は六〇〇〇万円の宝石だったが、これも持ち主はホステスだった。またこの地区には約一〇〇棟のマンション、アパートがあり、中には家賃が月二五万円という豪華版もあるが、ここにもホステスたちが住んでいる。
（「女性自身」三月二四日号）

珍アイディア

秋田駅に職員のゆり起こし機設置

〔秋田発〕国鉄（現・JR）秋田駅の乗務員宿泊所のベッドに、自動的に職員を起こす装置が取り付けられた。その機械は〝空気式安定起床装置〟と言い、起床時間にセットしておくと、マットの下の空気袋が膨らんで約三〇センチの高さとなり、それから上下運動が一〇秒おきに五分間続く。まあ、どんな寝坊でも、これくらい揺すられたらベッドから出るだろうというわけ。職員の寝坊による列車の運行ミスを防ごうというものだが、それにしても三〇あるベッドにこれを仕掛けるのに二二〇万円もかかったそうである。
（「河北新報」二月九日）

◀一一月二三日、東京・池袋に池袋パルコがオープン。

この年の初もの

エロチシズムの総合誌「エロチカ」創刊

●**人工海水浴場**　七月、伊豆・網代海岸に登場。一万七五〇〇平方メートルの海面をテトラポッドで囲んだもので、どんなに波の高い日でも安心して泳ぐことができる。

●**空飛ぶ大浴場**　和歌山県の有田温泉にゴンドラ式の浴場ができる。

●**女性のローラーゲーム選手**　佐々木陽子（二〇）がロサンゼルス・サンダーバードのプロに。

▲5月27日、東京・芝で日本初の美術オークション開催。　時事通信社

機動隊八五〇〇人と籠城学生六三一人の激突！
東大・安田講堂〝攻防〟の三五時間

医学部の研修医問題に端を発した東大闘争は、やがて医学部自治会の全学スト、全共闘の結成、教室・研究室封鎖へと進み、「東大解体」の運動とエスカレートしていく。そして一月一八日、全共闘の最後の砦、安田講堂にたてこもる学生に対し、機動隊が〝攻撃〟を開始した。

▲昭和43年11月の東大・駒場祭は、闘争の中での学園祭だった。ポスターには、悲壮感と遊び心が同居していた。 読売新聞社

九五㌫を記録したテレビ実況の視聴率

警視庁機動隊八五〇〇人が東京・本郷の東京大学に到着したのは、昭和四四年一月一八日、午前七時少し前だった。多重無線指揮車、放水車、トイレ車など三四六台の車両、催涙ガス銃五〇〇丁、催涙ガス弾一万発などのものしい装備があたりを威圧していた。気温はほぼ零度、機動隊の靴音が乾いて聞こえる。上空には、一〇機を超える報道陣のヘリコプターが舞い、一方で「東大闘争勝利、解放講堂死守」のアジ演説が続く。

機動隊は安田講堂を孤立させるため、列品館はじめ周辺の建物の攻略を先行させた。これらの攻防で一八日の午前中は終わる。

本格的な安田攻めの開始は、この日午後一時すぎから。勢いよく放水が続き、催涙ガス弾が発射され、ヘリコプターから催涙液が激しく注がれる。これに対し、学生側もまた、火炎瓶、コンクリート片、ガソリンなどを雨あられと投げ、頑強な抵抗を試みる。機動隊は講堂内に突入することすらままならない。しかも九階建ての講堂の窓という窓にはベニヤ板が張られ、スチール製のロッカーなどが立錐の余地なく並べられていた。バリケードの排除は遅々として進まない。

講堂周辺に、夕暮れが迫る。ヘリコプターのローターによって生じた乱気流で、放水が豪雨のように降りかかり、一瞬、虹すらかかった。そして日没を迎え、初日は水入りとなる。

「勝ってる闘いではなく、まる一日持ちこたえられないと思ってた。だから、我我は勝利したと宣言した」（東大全共闘行動隊長として安田講堂に籠城した今井澄氏、現・民主党参院議員）

徹夜の放水が続き、ライトアップされた講堂周辺で、機動隊員は焚き火にあたりながらごろ寝。籠城した学生は「一睡もしなかったし、握り飯も催涙液で苦かった」（当時、法学部五年で三階にいた松原脩雄弁護士）

両日を通じ、テレビは時々刻々ライブの映像を流し続けていた。関東地区の調査では、各局あわせて九五㌫という驚異的な視聴率を記録する。

二日目の攻防は、早朝六時半から始まった。困難な作業だが、少し、また少しとバリケードがはがされていく。一二時半、講堂二階が落ち、午後三時前、大講堂制圧。そして屋上に追いつめられた学生の逮捕が完了し、完全〝落城〟したのは午後五時四六分だった。三五時間におよぶ激闘で、全共闘学生の逮捕者は六三一人にのぼった。

「我々の闘いはけっして終わったのではなく、我々に代わって闘う同志の諸君が再び解放講堂から時計台放送を行う日まで、この放送を中止します」

▲東大全共闘の山本義隆代表。素粒子論専攻の大学院生だった。 共同通信社

◀1月18日、機動隊に隙間なく取り囲まれた安田講堂の屋上から投石で抵抗する学生。安田講堂は、東大闘争の象徴であり、最後の砦だった。 毎日新聞社

往きて還らぬ

▶3月28日　D・アイゼンハワー(78)
アメリカの政治家。第二次大戦中は連合軍総司令官として活躍。一九五三年大統領に就任、朝鮮戦争を終結させた。

▲10月9日　正力松太郎(84)
警視庁から読売新聞社社長に。昭和9年に大日本東京野球倶楽部(現・読売巨人軍)、戦後は日本テレビ放送網を創設。

▲11月11日　長谷川如是閑(93)
ジャーナリスト。明治、大正、昭和を通して新聞、雑誌で活躍。昭和7年刊行の『日本ファシズム批判』は発禁に。

▲9月9日　安藤鶴夫(60)
「都新聞」などの芸能記者として活躍。昭和39年『巷談本牧亭』で直木賞受賞。落語、歌舞伎、文楽などの評論多数。

▲6月22日　ジュディ・ガーランド(47)
アメリカのミュージカルの人気スター。1939年「オズの魔法使」でアカデミー特別賞受賞。ライザ・ミネリは娘。

▲2月12日　福沢幸雄(25)
カーレーサー。福沢諭吉のひ孫。テレビCMにも出演して人気があったが、レーシングカーのテスト運転中に事故死。

▲11月15日　伊藤整(64)
小説家。新心理主義文学の第一人者。昭和25年には『チャタレイ夫人の恋人』翻訳が猥褻として起訴された。

◀7月2日　成瀬巳喜男(63)
映画監督。昭和五年、監督としてデビュー。女の生きる哀しさを描き続けた。代表作に「めし」「浮雲」など。

共同通信社

▲2月21日　原阿佐緒(80)
歌人。大正から昭和の初めにかけて活躍、歌集に『涙痕』など。大正2年、物理学者との恋愛問題で話題に。

▲12月13日　獅子文六(76)
小説家。ユーモア文学と家庭小説で知られる。昭和44年文化勲章受章。代表作に『自由学校』『てんやわんや』など。

共同通信社

▲9月22日　長谷川かな女(81)
女流俳人の草分けで、昭和5年句誌「水明」創刊。随筆でも知られた。41年紫綬褒章受章。句集『龍胆』『雨月』など。

▼7月17日　市川雷蔵(37)
歌舞伎俳優から映画界入りし、時代劇の人気スターとして活躍した。当たり役の「眠狂四郎」ほか、158本に出演。

WWP

▲3月14日　ベン・シャーン(70)
アメリカの画家。社会的事件を情景として表現した。1960年来日、「第五福竜丸」事件に関する連作も制作した。

外から見たNIPPON

高見山は裕次郎が好み 在日経験者の「流行歌」批評

――佐伯　修

この年の六月一日から、「読売新聞」に連載されたコラム「マイ・ニッポン」は、「東京」「日本人」「祭り」「米」などの各テーマに、数人ずつの、日本に住んだり、滞在した経験のある、さまざまな国の人々からのコメントを集めた好企画だった。

「流行歌」というテーマについては、リチャード・A・メリット（アメリカ、大学教授）、高見山大五郎（力士）、ペーター・シュバルツ（オーストリア、チェロ奏者）ら六人が声を寄せている。

戦前、日本に留学経験があるメリットは「愛染かつら」などを「懐かしい」歌としてあげ、日本の歌の「日本独特の味」が好きだと言う高見山は、女性では伊東ゆかり、男性では石原裕次郎を好きな歌い手としてあげている。

▲ハイスクール時代、「ここに幸あり」を聴く。

高見山は、流行のグループサウンズはあまり好きではないと言い、その理由としてテンポの速いことのほかに、ミュージシャンたちの「力士の新弟子みたいな長髪が中途はんぱな感じを与えるのが気に入りません」と述べているのがご愛敬である。

音楽家のシュバルツは、日本の歌は「母音が多く、イタリアの歌に似ているような感じ」がするが、より「もの悲しげなムード」があると指摘する。

日本民謡を研究するベイシャ・ローゼンバーグ（アメリカ）は、子どもの頃、日系一世から「佐渡おけさ」のレコードを聴かされ「カッコイイ、おぼえたい」と思ったというだけあって、「民謡・流行歌、なんでも好き」で、流行歌なら、ピンキーとキラーズの「恋の季節」をはじめ、森進一、カルメン・マキ、水前寺清子など「こぶし」の利いたものがいいと言う。

だが、日本の流行歌の現状に対する彼女の批評は、次のようになかなか手厳しい。

「何と言うかはうまく言えないけど、日本の流行歌には〝怒っている気持ち〟がないと思う。いつもさびしい一点ばりで、メランコリーですね。そりゃ、アメリカでもサビシイ歌はありますよ。ブルースなんか。でも庶民の怒りというものが、いつもその底を流れています。なにも、プロテスト・ソングのことを言うんじゃなくてもね。黒人のソウル・ミュージックにみられるような〝どうにでもしやがれ〟という抵抗の感じ、ビターネス（苦さ）が日本の歌にはまるでありませんね。また昔の生活への楽しいノスタルジア（郷愁）を感じさせるような歌も少ない。とにかくワビシイですね」（「読売新聞」一〇月四日）

現在の日本ポップスはどうであろうか？

安田講堂の〝落城〟寸前、時計台放送は、こう締めくくった。

入試中止の圧力で全共闘、少数派に

東大闘争の発端は、昭和四三年一月二九日、インターン制度に代わる登録医師制度に反対する医学部自治会が、無期限ストに入ったことに始まる。学生らが医学部当局と団体交渉をする中で、医局長を軟禁するという偶発事件が起こり、当局が学生一七人を処分するが、この中の一人がその現場にいなかったということが判明する。

「大学当局は交渉要求を一貫して無視し、でたらめな処分すら行った。怒った学生が安田講堂を占拠（第一次安田講堂占拠）したんです」と今井氏は言う。

これに対して、大河内一男学長は四三年六月一七日、機動隊を導入する。

これをきっかけに闘争がいっきょに全学化していく。六月二〇日には東大全一〇学部のうち、九学部がスト突入。七月二日、安田講堂が再封鎖され、五日には東大闘争全学共闘会議が結成された。代表は理学科大学院生の山本義隆氏（二七）。物理学者として将来はノーベル賞確実と言われていた人物である。

やがて東大闘争は、たんなる大学改革のレベルにとどまらず、東大という存在そのものを根本的に否定する方向に突き進んでいく。つまり、人々の上に君臨する特権集団を作り出すシステムである東大に在学することを拒否しようと言うのだ。「自己否定」や「帝国主義大学解体」というスローガンがその象徴だった。だが、それは既成の秩序総体との永続的な対決を宣言したようなものだった。それだけに、ストの長期化にともなって学生たちの動揺・離反も顕著になっていった。

一一月に入ると、法学部や工学部などストから離脱する学部も現れ始めていた。さらに決定的となったのは、入試中止・東大廃校という政府などの主張だった。秋以降、全共闘は少数派に転落していく。こうした中で東大当局が、安田講堂の封鎖解除を要請したのだった。

山本義隆氏は、今、東京の駿台予備校の講師をしている。俗に「山本の物理」と呼ばれている氏の著書は受験生の隠れたベストセラーとなっているが、氏がマスコミに口を開くことはない、という。

◀一九日午後五時四六分、機動隊はついに突破口を開き、安田講堂内に入った。　毎日新聞社

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第19号 6月17日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1941[昭和16年]

●特集
「米英軍と戦闘状態に入れり」一二月八日、日本軍真珠湾を奇襲／二〇世紀最大の国際スパイ団「ゾルゲ事件」の深い闇／日劇七まわり半事件 女優「李香蘭」過熱人気の秘密／ドイツ軍三〇〇万がソ連攻撃 ヒトラー、「バルバロッサ作戦」発令

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する365日…国民学校令公布(3月1日)／日ソ中立条約、モスクワで調印(4月13日)／関門海底鉄道トンネルが貫通(7月10日)／東条英機内閣成立(10月18日)／御前会議、対米英蘭開戦を決定(12月1日)

●人物クローズアップ
高村光太郎、『智恵子抄』ベストセラーに

●決定的瞬間
大英帝国を支えたチャーチルの戦い

●美の出会い
カラフルな挿絵の国定教科書が登場

●女たちの肖像…高峰秀子、女優に脱皮／勝者・敗者…ピストン堀口、「槍の笹崎」にKO勝ち／証言・あの日この日…中野重治、黒田三郎／20世紀博物館…世界の貯金箱博物館(兵庫・尼崎市)／「現場」を歩く…今も旧「海軍兵学校」を訪れる一〇万人の胸のうち／外から見たNIPPON…ミャンマー建国の父、アウンサンが見た日本軍人の「差別」

●ベストセラー…『新書太閤記』に圧倒的人気／スターと名場面…「元禄忠臣蔵」に残る情報局検閲の痕跡／モノ語り'41…「アップルワイン・ポケット」など戦時下最後の"生活のうるおい"

■既刊好評発売中

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

創刊号(2月18日号)1959[昭和34年]　第2号(2月25日号)1964[昭和39年]　第3号(3月4日号)1945[昭和20年]　第4号(3月11日号)1970[昭和45年]　第5号(3月18日号)1963[昭和38年]　第6号(3月25日号)1958[昭和33年]

第7号(4月1日号)1972[昭和47年]　第8号(4月8日号)1980[昭和55年]　第9号(4月15日号)1976[昭和51年]　第10号(4月22日号)1989[平成元年]　第11号(4月29日号)1960[昭和35年]　第12号(5月6日号)1961[昭和36年]

第13号(5月13･20日号)1962[昭和37年]　第14号(5月27日号)1965[昭和40年]　第15号(6月3日号)1966[昭和41年]　第16号(6月10日号)1967[昭和42年]　第17号(6月17日号)1968[昭和43年]

■今後の刊行予定

▶第20号(7月8日号)1942[昭和17年]6月24日発売
ミッドウェー海戦●朝鮮人強制連行●戦争映画隆盛●ユダヤ人虐殺

▶第21号(7月15日号)1943[昭和18年]7月1日発売
学徒出陣●戦時下のグルメ●上野動物園から猛獣が消えた日●「伊8号」帰投す

▶第22号(7月22日号)1944[昭和19年]7月8日発売
神風特攻隊●学童疎開●戦時下の科学技術開発●独軍降伏

ミニ事典
1969年のキーワード

核抜き・基地本土並み

共同通信社

▲入港のたびに「核疑惑」が論議された米原子力空母「エンタープライズ」。

沖縄返還について、返還後米軍に核兵器を持ちこませず、基地の使用を本土と同様に憲法と日米安保条約の適用下に置く、という政府の基本方針。昭和四四年三月一〇日、佐藤首相が衆院予算委で初めて、この基本方針でアメリカと折衝すると答弁。しかし米原子力空母「エンタープライズ」の核持ちこみ疑惑を解決しないまま寄港させるなど、その保証は曖昧だった。

人工心臓

心臓の機能を代行させるため体内に設置される人工ポンプ。短期間心臓の補助をする補助人工心臓と、心臓の完全な代行をめざす完全人工心臓がある。この年四月四日、アメリカのイリノイ州でデントン・クーリー博士によって世界初の完全人工心臓の植えこみ手術が行われた。その六五時間後、本物の心臓といれかえたが、翌日、患者は死亡した。

コングロマリット

"複合企業"と訳される。異業種の企業を買収したり、合併したりして大きくなっていく企業。しばしば買収・合併は国を超えて行われる。一九六〇年代のアメリカで急成長し、この年五月六日には米ウォルター・キディ社が通産省にたて編み機のメーカー、山本機械製作所の株式取得を申請、コングロマリットの日本進出第一号になった。

欠陥車

米紙「ニューヨーク・タイムズ」が「日本は輸出車の欠陥を公表せず秘密裡に回収している」と指摘したため、運輸省はこの年六月五日、日産・トヨタの欠陥車種を公表し、総点検・修理を指示。これを契機に四輪車メーカー全社が調査、六月一六日、欠陥車は五八件、二四六万台にも達することがわかった。運輸省はその対策として部品の早急なJIS化、緊急自動車安全対策会議の設置を業界に要請することなどを決定した。

ASPAC

毎日新聞社

▲6月8日、伊東市で反日共系学生らがASPAC反対運動を展開。

日本・韓国・南ベトナムなど一〇ヵ国がアジア太平洋諸国の連帯強化をめざして結成した組織。昭和四一年発足。アジア・太平洋協議会、通称アスパック。この年六月九日、伊東市で第四回閣僚会議が開かれたが、反共同盟的色彩が強かったため、その前日と当日、反日共系学生らが開

暴力団汚染地域

警察庁が七月九日、暴力一掃作戦実施を各道府県に指示、その際に指定された全国一四ヵ所の地域。札幌市の薄野・豊平・菊水地区、青森県八戸市、福島県郡山市、横浜市鶴見区と神奈川県川崎市、長野県上山田温泉、静岡県静岡市・清水市・富士市、石川県加賀市、名古屋市、大阪市南部、阪神地域と兵庫県明石市・姫路市、岡山市・倉敷市、愛媛県松山市、福岡市と北九州市、大分県別府市・中津市。一二日には指定地域となった名古屋市の住民が暴力防犯区民大会を開いた。

平賀書簡

札幌地裁所長・平賀健太が長沼ナイキ訴訟に関して裁判長・福島重雄に「農林省の裁量どおり基地建設のための保安林指定解除を認めるように」と求めた手紙。憲法で定められた裁判官独立の原則を侵すものとして問題になり、九月二〇日、最高裁は平賀を注意処分とした。しかし、翌昭和四五年一〇月、国会の裁判官訴追委は平賀を不訴追にし、札幌高裁は書簡公表をとらえ、かえって福島を注意処分にした。

デートクラブ

盛り場の公衆電話ボックスや公衆便所などに「今晩おひま? お電話ください」などのチラシやカードを置き、入会金・デート料などを取ってホステスを斡旋する商売。しばしば客を閉じこめたり、「ばらすぞ」などと脅し、法外な金をふんだくっていた。警視庁は九月二五日、東京・新宿を中心に経営者八人、客引き三一人、ホステス一八人を詐欺・暴力行為などの容疑で逮捕した。

低俗番組

神奈川県の相模原市民会館が、日本テレビ「コント55号! 裏番組をブッ飛ばせ!!」で一〇月九日の会場使用を断った。コント55号と女性ゲストが野球拳をし、負けた方が脱いだ衣装をその場で競売する場面が超人気の番組だったが、日本視聴者会議に低俗番組第一位にあげられるなど批判が強かった。このほか「8時だヨ!全員集合」「どっきりカメラ」など、この年「低俗」と指弾された番組が花盛りだった。

反戦自衛官

「アンチ安保」「治安行動訓練を拒否せよ」などのビラを配布し、一一月一日に自衛隊法違反で逮捕された航空自衛隊佐渡分屯基地配属の三等空曹・小西誠は、「デモ隊は敵でない」などと訴え、九月には市ケ谷駐屯地内市ケ谷会館で僚友反戦結成大会も開いていた。昭和五〇年、新潟地裁が無罪判決、検察側は控訴したが、五六年の差し戻し審で無罪が確定した。

SALT1

共同通信社

▲SALT1で握手するソ連・セミョーノフ(左)と米・スミス両首席代表。

米ソの第一次戦略兵器制限交渉。戦略兵器とはICBM(大陸間弾道ミサイル)など相手の本土を直接攻撃することができる核兵器のこと。一一月一七日からヘルシンキで予備交渉が行われ、翌一九七〇年四月、ウィーンで本交渉が始まった。一九七二年、ABM(弾道弾迎撃ミサイル)を双方とも二ヵ所ずつに制限することと、ICBM発射台を規定の数に制限することが決まり、核軍備拡張競争にブレーキがかかった。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1969 CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 (有)エービーシープレス (株)カマル社 (株)コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ (有)マックス (有)マライカ
小原伸夫 鍵和田良輔 小松邦宏 佐野長成 張替政展 藤森雅弘
結城順一 吉田忠正

●写真協力
石井美雄 石黒健治 奥村健太郎 ラリー・バローズ
朝日新聞社 沖縄タイムス 共同通信社 CORBIS-BETTMANN SCIENCE・PHOTO・LIBRARY 時事通信社 新華社 TIME・LIFE 中国通信 TBS 日刊スポーツ ノーボスチ通信社 PANA通信社 PPS VNA 毎日新聞社 読売新聞社 WWP
大島渚プロダクション 松竹 住友銀行 東宝 中嶋製作所 日活
ビクターエンタテインメント 松下電器産業
たばこと塩の博物館 箱根彫刻の森美術館 NASA

定価560円

雑誌 23704 6/24 T1123704060565
Ⓛ 2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社